



千葉大学医学部同窓会報 第131号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail: idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp

平成14年度

るのほな同窓会総会開催

平成14年度るのほな同窓会総会が、平成14年6月22日(土)午後2時より、スカイウィンドウズ東天紅において開催された。

鈴木信夫理事の司会により、近藤洋一郎副会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者51名の冥福を祈り、黙祷を捧げた。長澤仁一会長挨拶に続



いて、鈴木信夫理事より会務報告があった。各議題については各担当理事から説明があり、審議承認された(詳細は15面に掲載)。

引き続き、各種教育助成金贈呈式及び平成14年度るのほな同窓会賞表彰式が行われた(関連記事は本号5〜7面及び130号に掲載)。

各種教育助成金贈呈式

各種教育助成金贈呈式は今回から行われるようになった。毎年、同窓会は計300万円程度の教育助成を医学部に対して行っているが、今まで助成金がどのように役

立てられているかを公に聞く機会がなかった。医学部施設設備助成金(100万円)、亥鼻分館助成金(100万円)、学生図書助成金(100万円)、雄翔寮図書助成金(15万円)



に対して福田康一郎医学研究院長、安達恵美子亥鼻分館長、学生代表新津富史君(医学部6年生)、雄翔寮代表洪勝男君(医学部4年生)からお礼の挨拶があった。特に、福田康一郎医学研究院長からは、独立法人化を目前に控えた医学研究院の状況の明解な説明もあり、一同が聞き入ることしばしであった。

るのほな同窓会賞

受賞候補者募集要項

第8回(二〇〇三年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者

①学術賞 本会員(甲および乙)で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。

特に学外の研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得直後の層からの応募を歓迎いたします。

②功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学るのほな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

①学術賞 (五件以内) 楯および副賞(総額二百五十万円程度)を贈呈します。

②功労賞 (三件以内) 楯および薄謝を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇〇三年1月7日から3月5日までの間に申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇〇三年5月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務局

るのほな同窓会賞規定については19面をご覧ください。



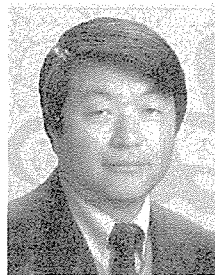
紙面紹介

就任の挨拶	2面
附属病院ニュース	3面
関連病院から見た大学	4〜5面
るのほな同窓会賞受賞者挨拶	5〜7面
ゲッティンゲンのシーボルト	7面
回想録	8面
書評	8面
中島祥夫先生を悼む	9面
クラス会	10〜12面
各地のるのほな会だより	12〜14面
るのほな同窓会総会議事録	15面
猪鼻城跡	16〜17面
校友会	18〜19面
エッセー	20面

教授就任挨拶

熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科

豊田直二(茨城大理昭49)



4月1日より熊本学園大学の社会福祉学部福祉環境学科にて生物学と環境論、環境生物学を教授する榮譽を得ることができました。千葉大学医学部では解剖学第一講座、また大学院医学研究院では環境生命医学講座に所属し、肉眼解剖の講義と実習、環境と筋の研究に携わって参りました。千葉大学医学部には大学院生、非常勤講師、助手、講師として合計21年間もお世話になっていましたことになりました。その間、嶋田裕教授、森千里教授、また各分野の先生方には常に暖かく御指導を賜り、深く感謝しております。

千葉大学医学部ではなによりも肉眼解剖の実習が強い思い出となっております。医学部の学生が入学して最初に直面する医学部らしい授業ですが、教える立場の私にとっても毎年のように新しさに遭遇する日々でした。それは医学部の学生の方々が御遺体に初めて直面した時の真摯な態度がいつも新鮮だったからです。実習時間の真剣な態度、体の構造という偽りのないものを学び取るという学生の姿は見ていてもさすがらしいものでした。また実習が終わったときの表情は、これから医師になるのだという希望に満ちておりました。かれらが実習をおえて室を去っていく後ろ姿を見つつ、私は解剖の教育をやってきた良かったと思っております。

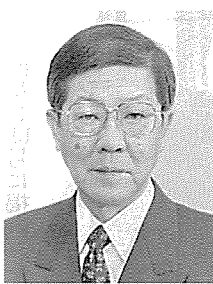
有明海と景勝も多く、水も空気もきれいで環境は素晴らしいのですが、水保病の発生地ということから環境に対する意識はレベルの高いものがあります。こちらの学生には水保周辺から通学している方も多く、環境の講義は熱心に聴いていきます。このようなところから講義には緊張感があります。しかしその一方で、受験の関係から高等学校で生物学

を学んでこない学生も多く、知識としてアンバランスな面も見られます。彼らには生物学に対する広い教養を身につけさせたいと考えております。千葉大学医学部にて教育、研究してきました成果を大いに役立てたいと思っております。千葉大学医学部での教育と研究は私にとってほんとうに実り多いものとなっております。

病院長就任挨拶

筑波大学附属病院

能勢忠男(昭42)



筑波大学附属病院は第1回生がM5になる学生の病院実習の開始に合せて昭和51年10月1日に開院されました。

私も長年住み慣れた千葉から建設半ばのつくば(当時は桜村)に移りました。今では日本の名道に指定されている東大通りも当時はダンプの落とした土砂で雨の日は長靴が必要、飲み屋

慌ただしく開院し診療がはじまり、昭和52年春から学生実習が開始されました。新しい試みのPPC(Pro-respive Patient Care)方式、診療グループ制診療体制、一患者一カルテ方式、レジデントのローテーション方式、外来予約制など不慣れだった制度も徐々に定着し、それなりの実績も上げてきたように思います。教官も2代目の時代に入り、長谷川先生の教授昇任、工藤典雄(生理)、成田の諸先生の教授就任、次いで能勢、白石、深尾の教授就任、福富久之(消内)、大川治夫(小児科)が時期は多少異なりますが教授に就任いたしました。その後、成田先生の後任として小山哲夫(腎内)が就任し、最近では住田孝之(リウマチ・アレルギー・膠原病)が教授として着任しております。私は平成13年4月より附属病院長を拝命いたしました。長谷川、深尾の両病院長の跡を継いでのもです。

国立大学はいずれも法人化を迎えて大変な時ですが幸いにも医学では医学専門学群長に工藤、臨床医学系長に小山と主要なポストはるのはな出身の方が居りますので心強い限りです。

病院長就任後一年余りたつての就任挨拶となりましたので筑波大学るのはな同窓会の諸先生の今昔も合わせて報告させていただきます。

人事異動

千葉大学

助教授昇任

臓器制御外科学

伊藤 博(昭56)

(同講師より)

遺伝子制御学

荒瀬 尚(北大平2)

(同助手より)

講師昇任

先端応用外科学

島田 英昭(昭59)

(同助手より)

松原 久裕(昭59)

(同助手より)

(小児病態学助手より)

(山梨医大昭62)

堀 誠司(昭58)

(先端応用外科学助手より)

小児科

金澤 正樹

(山梨医大昭62)

臨床分子生物学

宮川 昌久(慶大平5)

(歯科口腔外科助手より)

第一外科

今牧 瑞浦(昭61)

(臓器制御外科学助手より)

第二外科

岡住 慎一(昭59)

(先端応用外科学助手より)

堀 誠司(昭58)

四金会開催のお知らせ

平成14年11月27日(水) 午後5時30分より

千葉スカイウインドウズ東大紅

(千葉駅前そごう西隣りセンシティタワー22階)

同窓会員の方々の出席をお願い致します。

会費は三〇〇〇円です。

連絡先 千葉大学のはな同窓会

電話 043-202-3750

附属病院ニュース

病院長 伊藤 晴夫(昭39)

医学部附属病院の主な出来事(H14・4・5・H14・7)

平成14年4月1日

感染症管理治療部の設置

感染症管理治療部は、医療の高度化と社会生活の変貌による感染症の変化に対応すべく発足した。すなわち、院内感染の予防と対策エイズなどの難治性感染症マラリア・デング熱などの輸入感染症に取り組むことになる。さらに、炭疽などの生物テロにも対応すべく設置された本邦初の中央診療部である。

平成14年4月1日

診療のご案内発行

同窓の方などより患者の紹介をしたくとも病院内のことが良く分からないというご意見があるのはな同窓会の理事の方へ寄せられている。そこで各科の診療体制専門、高度医療などを載せた冊子を作成・配布した。

平成14年4月15日

企画情報部の設置

病院経営における経営改善体制を強化するため、医療情報部を包括した企画情報部を院内措置として設置

局指導医療官の佐々木徳秀氏を招き、保険診療に関する特別講演会を開催した。250名以上の教職員が出席した。

平成14年7月2日

関連病院長懇談会の開催

第1回千葉大学医学部附属病院関連病院長懇談会が、千葉で開催された。急な連絡にも拘らず、連絡した30数病院の病院長がほとんど全員出席された。

平成14年7月5日

臨床医学研究助成会総会の開催

多くの臨床医学研究助成会委員(千葉県財界の代表者が参加し、ホテル・ニューツカモトで開催された。その後小室一成教授の特別講演「高血圧と心不全の治療」および懇親会も行われた。経済状況の厳しい時期にも援助していただいているので、さらに多くの科長の出席が望まれる。

平成14年7月5日

院内演芸会の開催

今回はコンサートではなく、千葉大学落語研究会による七夕寄席を開催した。多数の患者さまが笑いに興じられた。

平成14年7月2日

道路標識の設置

附属病院の要請に応じて、千葉市と土木事務所により附属病院入口に案内道路標識が設置された。かねてより間違えやすいことが指摘されていた箇所である。

平成14年7月5日

厚生労働省職業安定局の業務指導課の職員等により、いわゆる医局の医師の派遣に関する調査が行われた。勤務する教官や研修医に就職先や研修先を紹介しているが、派遣先の決定は医師の自由意志により行われていることを説明した。

平成14年7月5日

臨床医学研究助成会総会の開催

多くの臨床医学研究助成会委員(千葉県財界の代表者が参加し、ホテル・ニューツカモトで開催された。その後小室一成教授の特別講演「高血圧と心不全の治療」および懇親会も行われた。経済状況の厳しい時期にも援助していただいているので、さらに多くの科長の出席が望まれる。

平成14年7月5日

院内演芸会の開催

今回はコンサートではなく、千葉大学落語研究会による七夕寄席を開催した。多数の患者さまが笑いに興じられた。

平成14年7月5日

院内演芸会の開催

今回はコンサートではなく、千葉大学落語研究会による七夕寄席を開催した。多数の患者さまが笑いに興じられた。

平成14年7月10日

医療訴訟担当裁判官の病院視察(研修)

全国の高裁判所及び地

方裁判所で医事関係訴訟等を担当する裁判官が来院し、院内を見学された。午後には平澤教授により「大学病院における医療事故防止について」の講演が行われた。その後、医療訴訟(裁判)、鑑定人等について活発な意見交換が行われた。

平成14年7月15日

国立大学医学部病院長会議の常置委員会の下

問題小委員会(委員長は大阪大学病院長)で「フォーラム国立大学病院」を発行することとなった。その創刊号の第1、2面に千葉大学、京都大学、東京医科大学、京大の3大学病院長による鼎談が掲載された。代議士などに卒後研修や包括評価などの説明に行くと、国立大学病院は経営がなっていない、医療事故が多発しているなどの芳しくない印象を持つことが多い。そこで国立大学病院もその存在価値をアピールしてゆくに年2-3回の発行を行うとしたものである。

千葉医学会 講演会のお知らせ

演題：アメリカ代替医療の現状と将来

演者：中澤 弘 先生

アメリカ鍼認定医学会会長・

アメリカ鍼医学会(アカデミー)幹事・理事

日時：平成14年10月16日(水) 18:00～

会場：千葉大学医学部附属病院3階 第1講堂

参加費は無料です。ふるってご参加ください。

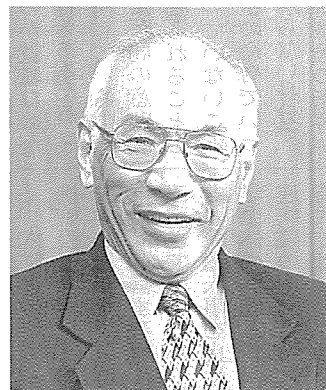
※この講演は日医生涯教育認定講座です。

問合せ：千葉医学会

千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院医学研究院内

Tel: 043-202-3755 Fax: 043-202-3757

e-mail: igakukai@med.m.chiba-u.ac.jp



関連病院から見た大学

社会保険船橋中央病院
病院長 久満 董 樹 (昭40)

インターン制度が廃止されて35年、医師の卒後教育問題はいま臨床研修必修化の形で決着しようとしている。その実施まで一年余となったにもかかわらず、国の取るべき態度が未だに不明確であることに驚く。医道審議会の五月段階での「中間とりまとめ」は、無

○研修医は大学病院志向

八割が大学病院での研修を念頭においていると聞く。学生の大学崇拜は困ったことだが、県内で九病院しか研修指定病院がない現状を見れば、しかたのないこと

かも知れない。だが、病院の機能分化や特化が奨励される一方で、総合病院でなければ研修指定病院にならない矛盾をどう解決すべきなのか。

臨床研修の本来の目的はどこにあるのか。大学病院ではもはや初期研修は不可能との判断と、若手医師の市中病院への早期放逐策とが相乗りして、今回の臨床研修必修化案が生まれたものと、私は考えている。大学に集中する医師をなんとか他へ適正配分したいとの意図が見えるはずである。福祉や介護保険まで研修内

期に明確な研修病院施設基

容に加えたのはそのためだろう。それほどに医師の偏在は深刻なのだ。一部の地方医師会が独自の研修医体制を打ち上げたが、看護師不足を准看護養成で賄おうとする発想に似て、何か切ないものを感じる。このような焦燥感を国は真剣に捉えるべきだろう。

研修医のニーズは多様であるが、複数の研修コースを用意することが適切なのか疑問である。多分なくなるであろうはずの、入局希望診療科でのストレート研修を七割が選択するのは何故なのか。ストレート研

修は事実上の入局に他ならない。大学は、表向きは初年度の入局を認めないと言いがら、各医局は研修医と暗黙の入局契約を交わすだろうと公言している。

年々減少する傾向の入局者を、大学が一人でも多く欲する事情は理解できるが、理由は何なのか。研修医の本心はどうなのか。研修は一般の優良病院でしたく

ても、一年でも早く入局しないと不安がある、同期生の幾人かに大学で入局の形で研修されたら、外で研修しては遅れをとる、そう考

えられないルールは、最低限守られなければならないのだ。大学で希望者全てを受け入れるキャパシティがないなら、なおさら二年間の研修は大学病院以外で行うべしと決める方が理に叶っている。これでは二年間、大学の医局に空白が生まれると言っ

う。一部の研修医が一般研修病院でそのまま臨床医になっ

てしまっても、それは望ましい選択ではないか。行き過ぎた大学志向を抑制するの

が研修の目的の一つであるなら、優れた研修病院の魅力に引かれることを妨げる必要はないと思う。同様に、三年目から希望する専

攻科に入局した者が、一層特化した専門領域の臨床を極めることも、学問一筋の研究者になることも、彼らの自由と割り切るべきではないか。

○指導医をどうするか

研修医制度のもう一つの大切な問題は、市中研修病院の指導医の養成である。内科に限って言えば、市中病院の良さは、専門化されない総合内科診療やプライマリケアにあるはずであ

たが、現在は、出身医局により色分けされた専門領域が医師ごとに決まっており、その垣根は容易には崩れない。臨床研修の最大目標である総合的診療の心得は、

簡単には学べない構想になっているのだ。専門が細分化されればいかににも便利に見えるが、一人部長や一人医

長の超多忙勤務に支えられた診療が行われているのが現状である。伝えるべき情報を持ちながら、指導の時

間も技術も乏しい勤務医に、何の代償もなしに研修医を預けるのは困難ではないか。今の学会認定医や学会指導医が必ずしも良き臨床指導医でないことは、われわれが

一番よく知っているはずである。また一般病院では、研修医の受け入れを前提にして、常勤医が訓練されてきたわけではないのだ。市中の関連病院に良い指導医が育ち定着するには、大学

をはじめ世間一般にも臨床医学を重んじる風土が醸成されていなければならない。医師や患者が規定数を満たすだけで、研修指定病院の責任が果たせるものではないように思う。

一般に勤務医になると途端に自己研鑽を止めてしまいう傾向があるが、関連病院では、大学と違う新たな勉強をしなければなら

ない。貯金だけでは暮らせないので、また、日常勤務をしながら研鑽を積むにはそれなりの動機づけが必要である。部下や研修医の指導をしな

ければ自分の立場が危うくなる、病院は時間や経費の面で彼らを支援する、などの体制がこれからは求められる。一朝一夕にはできな

○FA制も考えられる

どこの教室も名簿には驚くほどの数の「現」教室員の名がありながら、実際に大学にいる者は少数で教室の運営にもこと欠くという。つまり関連病院への派遣がそれだけ多いということである。医局長の仕事の大半は、関連病院への派遣人事であると聞いている。なか

には派遣なのか就職なのか明確でない者もあるだろう。十年以上勤務している中年医師が、まだ医局の意向次第で異動させられることを不思議に思っていないことに驚く。教室の命令でい

つどうなるか解らない身分で、落ち着いて研修医の指導ができるだろうか。これは互に不幸なことではないか。

大学では定員があつて溢れ出し、市中病院では常に医師を求めている。それなのになぜ需要と供給のバランスがとれないのか。言うまでもなく、教室「在籍者」の彼らには自由がないからである。第一内科を例にとれば、現教室員は129人(関連病院会議資料)であり、教官は15人にすぎない。その最若年が昭和63年卒で、この14年間ポストは空かないのである。プロ野球選手に倣って、一定年限在籍した医師のFA制を取り入れ

たり、関連病院間でのトレードを自由化したりしてはどうか。医師には勤務する病院を選択する権利があつてよいし、病院も選ばれる努力をするはずである。

どうしても大学が関与するなら、指導医の人選と配分に徹底的に介入すべきだろう。関連病院を研修の従施設と位置付けるだけでなく、大学との研究診療の連携施設と考え、学内に大学を中心とした病院群構想を立てて運営する組織をつくるべきではないか。医局ごとの派遣人事を止めて、大学全体の問題と認識し、関連病院の選別と特化を行う時代ではないだろうか。

○研修終了後はどこへ

研修を終えた研修医は大学医局に入局、あるいは帰局するのがふつうである。若手医師として市中病院で働いてほしい時期に大学に戻ってしまうのである。多くは学位を取得するためと言ってよいだろう。臨床教室に学位授与権があるかぎり、四年から六年間、大学が病院の診療要員として彼らを拘束することは将来も変わらない。大学院大学が従来と変わらぬ入局と派遣出張のスタイルをとるなら、何がかわるのだろうか。優秀な研究者育成を目的とするならば、学位取得期間は院生に診療と研究の二足のわらじは履かせられまい。臨床研究ではもはや学位が取れないと言われる昨今、研究の足場の多くは基礎医学に置かれるはずである。臨床をはなれて四年後、博士号の称号を掲げて市中病院に凱旋しても、それを臨床指導医と呼んでよいのか問われる時代ではないか。いづれ一般病院の医師採用条件の中に、研究期間を臨床実績から除外する評価が定着するはずである。

号として、それは実を伴ったものであった。あの時代の医局の活気、自信に満ちた医局員の顔は今も忘れることができない。しかし、臨床報告だけで注目された学会での特異な存在感も、やがて海外留学、基礎教室への出向、学位取得志向へと、練士の要請が変化することにつれて色褪せるのを見てきた。我が国は、それくらい臨床で評価されることが難しい国なのではないか。

○大学は中核病院か

大学の今後の在り方をどうと、大学病院は地域の中核病院として病診連携に努めるとある。私は、大学は機能を特化した特殊な病院であるべきだと思う。特定機能病院が朝から晩まで外来診療をやってよいのだろうか。慶応大学が日に五千人、女子医大が四千五百人と言われる外来数を誇っていたが、これでは急性期病院の認定も受けられない。機能分離が全くていいのである。特定疾患、特殊検査、先進治療に特化するべきであり、市中関連病院と同様に病診連携に努める中核病院ではおかしい。ましてやDRG包括診療を率先して取り入れるなど、大学病院の使命ではないように思う。むしろ一般保険制度に収まらない医療を主張すべきなのではないか。どこでもやれる医療は早々に医師ごと関連病院へ譲ればよい。大学病院は誰もが気楽に受診できる病院であってはいけない、これが機能分離ではないか。

独立行政法人化されたとき、大学病院はどのような存在になると想定したらいいのか。大学病院が現行の保険制度で収益を上げるなどとは不可能だろう。大学病院は何をするためにあるのか、診療をするのは大学院の教官なのか、全く別の診療医なのか、やはり研究も診療も学生教育も兼任するのか、今までと何がどう変わるのか、われわれには全く見えない。ただ想像できることは、研修医が乏しい症例に群がり、院生が研究の片手間に病棟を覗き、教授が管理回診をする従来と変わらぬ風景である。

「変わらなきや」というタイトルの本が病院管理者の間で評判になった。変革は、それが行われる組織の規模によって手法が異なるはずで、誰にも同じことが可能ではない。大学病院がいま外圧によって変わろうとするなら、それへの抵抗勢力が存在するのは当然だろう。一番居心地よい人が変化を望むわけではないし、既得権を持った人はそれを手放すことをしない。管理、教育、研究、診療をいかに分離できるかが、変革の成否を左右することは明白だろう。大学人が、自分は何をするためにいるのか、それを真摯に考えないかぎり変革はできない。全てが丸く収まる改革はあり得ない。保身を優先してはなし得ない。関連病院は大学の行く末を案じているのだ。

○変わるなきや

自分のことを棚に上げてとは、まさにこのことで、大学人が百も承知のことばかり、勝手な意見を述べた。お前はどうかと問われながら評論は書けないものとして、お許しを乞う。

功労賞

志村昭光(昭30) 副支部長

この度は「るの は な 賞」の立派な桶を頂戴し、大変光栄なことと感激いたしております。

省みますと学内経験が乏しかった私は、同窓の先輩・後輩のご支援により今日まで仕事を続けることができました。私の仕事を一口で申しますと今回受賞の「国内外での結核対策と保健活動」ということになりました。

このうち結核は、丁度過渡期でなまじ昔の結核を知らないのが強みともなっており、日本結核病学会予防委員会からは、結核の院内感染対策など多くの声明や提言を公にし、それが国の政策にも反映され1999年には結核非常事態宣言となりました。再興感染症としての結核はG8九州沖縄サミットの共同宣言にも採択されたように国際的にはブライオリティが高く、私自身もネパール・カンボジア・チベットなどの結核対策を手伝う機会に恵まれました。海外で活躍する同窓はまだ少なく、是非関心をもって頂きたいところです。

結核以外のヘルスの分野では、健康診断を実施するだけではなく社会的な実践活動を中心に例えば、エックス線検査の精度管理、特に胸部写真の2人読みの普及などに力を注ぎ、これがわが国の肺がん検診の読影方法の標準になっております。また、新しい技術の導入も手がけ、全国に先駆けたらせんCTを搭載した検診車をつくり、これを肺がん検診に応用することで通常のエックス線検査に比べ発見率を十倍も向上させることが判りました。このような試みでも、同窓の先生方に助けて頂いております。内科医として研鑽をつみながら何時の間にか結核症の疫学や管理に興味が移り、地域保健・産業保健・学校保健などヘルスの分野で仕事をさせて頂きました。お一人ずつの名前はあげませんが、今回の功労賞にご推薦くださった方や選考委員会の方々、永年にわたり仕事を共にしてくださった「るの は な 同窓会」の皆様にごよりお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

橘先生の退官後は、鈴木信夫先生の御指導のもとに、環境中のDNA損傷ストレスに対するヒト細胞の応答機構を研究しています。近年、環境破壊によるオゾン層の減少という問題がありますので、紫外線に対する

学術賞
千葉大環境影響生化学講師
喜多和子(千葉大薬昭50)

この度は、るの は な 同窓会学術賞をいただき、大変光栄に感じております。

私は、千葉大学薬学部を卒業後、旧第二生化学教室の橋正道教授に師事し、研究の基礎を教えていただきました。核酸前駆体合成の調節酵素であるホスホリボシルピロリン酸合成酵素をラット肝から精製する仕事に携わりましたが、なかなか精製できず、コールドルームの冷氣と戦う憂鬱な日々が続きました。通算10年近く関わった酵素の仕事は、幸運にも、新たな調節サブユニットの発見につながりました。この仕事に参画できたことは貴重な経験となりました。

橘先生の退官後は、鈴木信夫先生の御指導のもとに、環境中のDNA損傷ストレスに対するヒト細胞の応答機構を研究しています。近年、環境破壊によるオゾン層の減少という問題がありますので、紫外線に対する

防御のメカニズムの研究は重要と思われました。そこで、放射線高感受性の培養ヒト細胞を用いて、紫外線応答に関わる遺伝子を mRNA differential display 法により探し、いくつかの紫外線応答に関わる遺伝子を見出すことができました。最近では、同様の手法を、微小重力環境下でのストレスや環境化学物質に対する応答機構の研究へ応用しています。微小重力負荷実験は、北海道砂川の落下塔での自由落下により、細胞に重力変動ストレスを負荷するという面白い実験です。10秒間程の微小重力負荷ですが、遺伝子発現や細胞表面分子の発現が変動することが解りました。生物が環境ストレスから自身を守る仕組みには、まだ未知の部分も多く、その謎を解くのは楽しみでもあります。

千葉県がんセンター・病理研究部長
田川雅敏(昭54)



この度は、ゐのほな同窓会賞学術賞を戴き、誠に有り難うございます。私は、昭和54年本学を卒業後大学院に進学し、免疫研究部(現免疫発生学)谷口克教授の御指導のもと免疫学、分子生物学を学ぶ機会に恵まれました。その後スタンフォード大学、また藤村眞示教授の主幸された千葉大学第一生化学教室(現遺伝子生化学)などで研鑽を積み、平成9年に千葉県がんセンターに赴任いたしました。今回受賞の対象となりましたが、がんに対する遺伝子治療の主たる研究は、千葉県がんセンターにおいて行われたものですが、実際に研究に携わってくださったのは、千葉大学大学院先端応用外科学、腫瘍内科学、加齢呼吸器病態制御学の先生方であり、優秀な先生方を派遣して下さいましたこれらの教室の先生方、また共同実験をはじめ多くのご協力を賜り

した千葉大学医学部の諸先生方に、重ねてお礼申し上げます。さて治療目的で、患者さんに遺伝子が実際に投与されてから、まだ10年あまりであり、臨床の現場で遺伝子治療技術が広く利用されるには、まだまだ多くの課題が残されております。遺伝子治療は21世紀の治療法と称されておりますが、目的細胞への遺伝子導入効率の向上をはじめとして、幾多の基礎的研究が依然として必要であることは衆目の一致するところですが、しかし、欧米諸国において、この分野に多くの投資がされていることは、遺伝子治療にかける人々の期待の大ききの現れであり、技術立国を再び目指す本邦においても、遅れをとるわけにはいきません。私どもの研究室ではこれまで、サイトカイン遺伝子や転写レベルでの遺伝子発現制御を応用した研究が主たるものでありましたが、最近ではウイルスベクターの改変も手がけており、今後は細胞治療とも強い関連を持ちつつ、複合的視野を有した、より国際的なレベルでの研究を推進したいと思っております。幸い本学には、遺伝子治療を積極的に進めようとする先

生方が多く、私どもの研究室もこういった先生方とこれまで以上に強い連係を保ちながら、すこしでも本邦のトランスレーショナルリサーチに貢献できればと考えております。末筆ではありますが、本研究の遂行にご尽力下さいました千葉県がんセンター研究局長崎山樹先生、ならびに病理研究部の研究員の皆様に感謝申し上げます。

~~~~~

順天堂大学医学部講師  
中尾篤人(平元)



この度はゐのほな同窓会賞学術賞をいただき、心からお礼申し上げます。

私は平成元年に千葉大学を卒業後、第二内科に入局しました。当時の第二内科は吉田尚教授(現駒込病院長)、富岡玖夫助教授(現東邦大教授)、斎藤康講師(現教授)らをはじめとする優秀なスタッフが研修医を指導され、私は臨床的な技術だけでなく、病気の背景にあるメカニズムまで考えることの重要性を教えられました。その後旭中央病

院にて吉田象二先生(現副院長)のもとで喘息や膠原病の臨床を中心とした研修をうけ、臨床医としての自立心を養うことができました。その後第二内科に帰るにあたり、自分自身が研修医のとき喘息になってしまったこともあり、アレルギーグループに参加し、岩本逸夫助教授、中島裕史先生(現助手)らの指導を受けました。平成7年スウェーデンのウプサラ市にあるルードウィック癌研究所に留学し transforming growth factor- $\beta$  (TGF- $\beta$ ) という分子についての基礎的研究をはじめました。そこで Carl-Henrik Heldin 所長や Peter ten Dijke 博士、宮園浩平博士(現東大教授)らと出会い、よい研究とは何か、教えられました。このとき学生時代に白澤浩先生(現ウィルス学教授)から分子生物学の基礎を習っていたのが大変役に立ちました。帰国後、一念発起して、平成11年に順天堂大学医学部のアトピー疾患研究センターに移り、羅智靖助教授(現日大教授)、奥村康教授、小川秀興センター長(学長)らのご指導をうけ、TGF- $\beta$  の様々な生理的、病理的役割を明らかにすべく研究を継続し、現在

に至っております。

このように私は、これまでさまざまな優秀な方々に接することができ、本当に幸運であったと思う次第です。その他一緒に研究をした大学院生、共同研究者の方々など、今までお世話になった方々すべてに、今回の受賞にあたり、この場をお借りしてあらためて心より深謝いたします。今後は、逆に私が皆様のお役にたつことが多少なりともできるよう微力ながら努力したいと思っております。

~~~~~

千葉大臓器制御外科学助手
吉留博之(昭63)



このたびは、名誉あるゐのほな同窓会賞学術賞を頂き、心より感謝申し上げます。

私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業後、第一外科に入局いたしました。奥井勝二教授の御指導のもと外科学一般について修練を始めました。初期研修終了後現教授でいらっしゃる宮崎勝先生の研究室に入り肝臓外科に関する研究を始めま

した。肝虚血再灌流障害や閉塞性黄疸肝における類洞内皮細胞障害について仕事を始めましたが、全くゼロからのスタートを教室の諸先輩方から熱心に御指導いただきまして、徐々に研究のおもしろさや難しさがわかり始めた頃に機会を頂きまして平成8年から11年3月まで、米国 Kentucky 州 Louisville 大学外科で基礎研究をすることになりました。Michael J. Edwards 教授や Alex B. Lentsch 先生の御指導の下、肝虚血再灌流障害の mechanism についてマウスを用いて研究を開始いたしました。cytokine 並に chemokine の経時的発現を肝並びに遠隔臓器である肺で検討し、その発現制御に関し転写因子である Nuclear Factor-kappa B (NFkB) が中心となることを報告し、その後 IL-10 α SLP1 という内因性の protease inhibitor によって NFkB の活性化を抑制し障害が軽減されることを証明しました。その後 NFkB の多面性にわたる機能を考え、IL-13に着目し Jak-STAT6 pathway の本障害に関する役割に注目し今回の研究をご評価いただき受賞させていただきました。

STAT6を活性化することによって、NFκBの増生シグナルや肝再生に関する機能を抑制することなく障害を軽減できる点で、より臨床応用ができると考え今後この点について研究を進めたいと考えております。

よりこれまでの研究が為し得てきたと思っております非常に感謝申し上げますとともに今後ゐのはな同窓会賞学術賞受賞を励みとし、研究を進めたいと考えておりますので今後とも御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

き継いだ。
こんなわけで、ゲッティンゲンのジーボルトは、長崎のジーボルトの従兄である。彼自身、文字通り、玄人はだしの音楽の才に長けた人でもあったが、その娘アガートも美声の持ち主だった。ヨハネス・ブラームスは終生結婚しなかったが、アガートとは婚約している。

彼には二つの弦楽六重奏曲がある。第一番ロ長調はゲッティンゲンで作曲が始められ、第二番のト長調は、アガート・セクステットとして知られている。このことは、拙著「ゲッティンゲン便り」(近代文芸社)にやや詳しく書いた。

ジーボルトの在籍した当大学産婦人科教室はドイツで一番古く、1751年に創設されたので、昨年11月23、24日に創立250年を祝った。23日夜は大学創立百年に建った講堂(井出先生が大学250年祭に、ここで、お祝いの言葉をのべられた。私の退役記念音楽会もここであった)での記念講演。24日はシムボジウム。その夜は、ドイツ劇場での観劇。

先代のクーン教授は、日独産婦人科学会の会長に就任するまで、千葉大学との提携専門委員であった。高見沢裕吉名誉教授と親しい。

随想

ゲッティンゲンのジーボルト

高野 光 司(昭33)

蘭学の恩人、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトは、ヴェルツブルグの名医家の出身である。祖父カール・カスパー・フォン・ジーボルトは外科を学問のレベルに引き上げた功績で「von」の名称をゆるされた。北(ゲッティンゲン)のリヒター、南のジーボルトは、当時のドイツ外科学の二大巨峰であった。因みに、ビルロートははじめ多くの大外科医を生んだランゲンベックの伯父はこの両巨峰に学んでいる。ジーボルトの息子三人が、医学の教授になったので、ヴェルツブルク大学医学部は、ジーボルト・アカデミーと言われたという。

長男は、ゲッティンゲン大学でも学んだ解剖学教授であったが、日本にやってきたフィリップが二歳にならないうちに亡くなった。末の息子は、産科教授として、ヴェルツブルク、後に創立間もないベルリン大学教授となり、1813年、「産科学雑誌」を創めた。その息子、エドワード・カール・カスパー・フォン・ジーボルトは1801年にヴェルツブルクに生まれた。

ベルリン大学講師、マールブルク大学教授をへて、1832年にゲッティンゲン大学の産科学教授に就任した。産科に麻酔を導入したパイオニアの一人であり、叔父のはじめた産科学雑誌を引き継いだ。

クーン夫人から、2002年夏学期の第3号に日本と医学の歴史について書け、という依頼があった。私はその任にあらず、また書けたとしても膨大なものになってしまうから、と言う理由で、「ゲッティンゲンのジーボルト/長崎のジーボルト」という題にしてみました。講義を止めて6年、もとも鈍刀の私のドイツ語も錯付いて、A4版6枚の原稿作りは、苦勞もあつたが楽しい作業だった。フィリップ・フランツの生誕200年に、日本とドイツで、同時発行同じジーボルトの肖像のある切手がある。大著フロー

ラ・ヤポニカにのっているHydrangea Otaksa(あじさい)の絵。Otakeは妻、滝、の愛称といわれている。ジーボルト親娘も住んでいた、大学産科クリニクのなかの螺旋階段は、ゲイテもその美をほめたという。これらの写真を、挿し絵の候補として、スペースに合うものを採用するように依頼した。本原稿が印刷にな

る頃には、ドイツ語の方も出版されているだろう。当時の大学産科クリニクの建物は、現在音楽学セミナーが使っていて、内部に、全世界からの楽器の小博物館もある。ゲッティンゲンにおいてになれば、ご案内する。切手はドイツで発行されたもの。EU貨幣実施により、この7月から無効になる。

ゐのはな同窓会報年表(平成14年9月現在)

昭和8~16年	千葉医大学友会報 第1号~第36号	新聞サイズ(B3)
昭和16~18年	千葉医大報國團報 第37号~第45号	新聞サイズ(B3)
昭和27~29年	同窓会報「ゐのはな ² 」創刊号~第2号	B5冊子体
昭和34~現在	千葉大学医学部同窓会報「ゐのはな ³ 」改版第1号~131号 ⁴	B4タブロイド版(第1~49号) B5タブロイド版(第50~108号) A4タブロイド版(第109~131号)

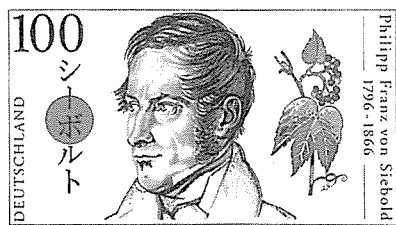
¹ 千葉医大学友会報は第36号で廃刊と報じられているが、千葉医大報國團報は学友会報に連番となっている。

² 題字「ゐのはな」は加賀谷勇之助先生。2号までしか出されなかった同窓会報「ゐのはな」は小林龍男先生が編集なさった。

³ 第50号以降に題字「ゐのはな」のロゴが再登場し、題字は鈴木五郎先生。

⁴ 千葉大学医学部同窓会報「ゐのはな」第56号は永久欠号となっており、第57号は再刊号となっている。題字のバックに様々な葉の模様が加えられたのは第57号からで、紙質もこの時から良質のものを使用。

* 編集部には未保存の会報; 千葉医大学友会報第2, 3, 7, 9, 10, 19, 22, 43号。千葉医大報國團報第43号。千葉大学医学部同窓会報「ゐのはな」第85号。



回想録 (2)

中澤 弘 (昭31)

扱て青雲の志を抱いて「第二の人生」をかけた1950年代のアメリカはさすがでした。今でも隆盛を極め、安定した当時のことを懐しく思い現今との相異を悲嘆する人達が少くありません。しかし私は何よりも自分の非力に心を痛めていました。その第一は学問の不勉強、第二は勿論言葉の難しさ、第三に本当の意味での生活の智慧がないこと、第四が目の前にみる東洋人を含めた人種への偏見です。不勉強はホルデウス先生の紹介で、東部ボルチモア市、ジョンス・ホプキンス傍系の聖アグネス病院(350床)でローティン・グ・インターンとして各科を廻るやり直しを始めたのが良かったのか、次第に自信をつけ、翌年の一般外科レジデントの階段を競争しながら上って行くことが出来ました。

やること、カンファレンスでの発表、討論に全力参加することなど、身につけた勉強がものを云いますから、私は言葉で二倍、人種で二倍、都合四倍の努力をしてやっと一人前になれるという自己流の鉄則でやりました。評価は毎年、このオープンシステムの病院へ患者を入院させる外科医たちが外科部長の下に集って決めるのです。この様なビラミッド・システムでは落されて残れないレジデントがそのたびに出て来ます。幸いに私は最終年をチーフレジデントとして責任をまかされました。それは喜びと苦しみの日でしたが、頑張り、全課程を了へ、又開業試験も通って晴れて一般外科医となり、「三十にして立つ」で当地でやってみようと決意しました。

その当時ふとして読んだ「もうひとつのアメリカ」という本に心を打たれてその貧しい人達に少しでも役に立ちたい気持ちになりました。まだメディケヤとかメディケイトなどの政府の老人・貧民への保険のない時期です。千葉の「社医研」

の様な心構えで一日の半分は黒人街のクリニックで働くことにしました。しかしベトナム戦争を境にアメリカは苦痛の時代に入り70年以降は麻薬の影響で家庭が崩れ始め、人種問題などで騒然となり律儀だった黒人社会も、街も危険な状態になり、白人達は郊外へ移り出し、福祉制度(ウェルフェア)の乱用による自立する気力を失った若い世代が溢れ出し麻薬の普及が次第に中流家庭の子弟にまで及んで医師会でも対策が討議されました。私は医師、弁護士と教師、三職が一体となつての中学校訪問を呼びかけ、三団体の支援と、多数のボランティアにより、医師は麻薬の中毒、煙草、アルコールの害、弁護士は中学生にも刑法が適用されることなどを強調し、一応の成果をあげました。何よりも中学校で、私達の話の一部をテキストにして必須科目として今でも使っています。

市長も州知事も協力して下さい、私も次第に医師会のリーダーとして認められました。しかし医師会も実は大変だったのです。財政の逼迫により病院、医師への支払がカットされ始め、一方では訴訟が増え医療紛争と保険料のアップで医師

の実収入は減り、80年から始まったHMOなどによる厳しい制約となり政府、保険会社などによって医師会そのものの力が落ちました。医師の話はいつも私のカットとそれによる開業の難しさです。

が心のアルバムに残っています。私の「第二の人生」は自分のことより日米両国の

の為に何か出来たという自負で一杯です。

書評

「医療事故防止のための安全管理体制の確立に向けて」提言

国立大学医学部附属病院会議編
日総研出版発行

埼玉県厚生連幸手総合病院院長

井坂 茂夫 (昭51)

本書は、近年多発している観のある大学病院における医療事故を防止するため、国立大学医学部附属病院長会議の常置委員会(委員長・伊藤晴夫千葉大学医学部附属病院長)が、各大学病院の安全管理体制を総点検し、2年間の歳月をかけてまとめた最終報告書である。時あたかも2002年4月の診療報酬改定により、医療安全管理体制が未整備の病院は入院基本料を減額される時代となり、全ての病院管理者はこの「提言」を精読し、自院の規模、内容に見合った安全管理体制を構築することが必須の課題とされている。本書の内容は、緒言にも書かれているように、「人は過ちを犯す」という避けられない前提に

立て、個人の誠意と熱意にのみ頼ることなく、科学的で、組織的な病院安全管理体制の構築を提案している。第I編医療事故防止のための基本的な考え方では、各職種、診療科におけるクオリティ・アシュアランスを縦系に、組織横断的なアプローチを横系に、患者を中心にした総合的に継続的な管理体制の必要性を説いている。第II編安全管理に関する総合的な体制整備では、院内組織体制の整備、ニアミス報告の制度化、職員に対する教育・研修など、基本的でかつ診療報酬上も重要な事項が記載されている。第III編医療そのものの改善を通じた安全性の向上では、各大学の経験、知識を動員し、

訂正とお詫び
130号で、左記の誤りがありました。訂正しお詫び申し上げます。
千葉県地区医師会長 鎌田 努 (昭41)
↓ 鎗田 努 (昭41)

中島伸之教授退官記念会
三十万円

るの は な 同窓会
への寄附

中島祥夫先生を悼む

神経情報統合生理学 下山 一郎 (昭48)

千葉大の生理学は1876年(明治9年)の千葉医学専門学校から明記され、電気生理学で遡ると、カエルの心臓を研究した酒井卓造教授(1907-1935)までさかのぼります(千葉大医学部85年史240-251)。そのあと鈴木正夫教授、福田篤郎教授(生理学第二)、本間三郎教授(生理学第一)、本田良行教授(生理学第二)、中島祥夫教授(生理学第一)、現在の福田康一郎教授(生理学第二)にいたるまで電気生理学をキーワードに研究し啓蒙して参りました。

その中で中島先生は本間先生の後任として、生理学第一の伝統の、動物性機能の電気生理学を継承し、臨床に直結した基礎医学として非侵襲的神経機能解析を押し進めている矢先に病魔に仆られました。骨格筋の神経制御機構解析から、視覚/体性感覚誘発電位、双極子追跡法の開発さらにその応用(てんかんの焦点解析、腰痛の神経メカニズム解析、発声・呼吸・味覚の神経機構解析、ニューログラムによる体性感覚・自律神経解析・血圧動態の解明

精神神経科、脳神経外科、小児科、耳鼻咽喉科、神経内科、第3内科、第2外科等と広範囲にわたり、医学に役立つ生体信号解析に情熱をそいでおりました。双極子追跡法においては、当初から開発に関わり、アルゴリズムからプログラムにまで精通し、特許・製品開発にまで携わりました。近年では、脳機能局在の時間解像度の追求のみならず、空間解像度も向上させるため、機能的MRIとの総合的研究に取り掛かったばかりでした。

医学教育にも尽力され、全国的なセミナーには出席し、教員の教育方法の改善向上に心をそそぎ、千葉大学医学部医学教育ワークショップの基礎作り・啓蒙さらには全国コア・カリキュラムの草稿づくりにも尽力されました。講義も緻密かつ準備周到で、大学院生が10数年まえの中島先生の生理学ノートを見ても役に立つと聞きます。バスケット部の後輩はさることながら、学生の面倒見がよく、東医体の役員として活躍されたこともありました。

全国的には、学位授与機構審査会臨時専門委員、日本学術会議の実験動物研究連絡委員会委員、国立大学医学部長会議動物実験に関する小委員会委員などとして活躍されました。日本生理学会では常任幹事として、日本生理学会雑誌編集委員、実験動物に関する委員会委員長をされ、動物実験がスムーズにできるように動物実験指針の作成に陣頭指揮され環境庁に足を運んでおりました。また日本臨床神経生理学会評議員、非侵襲的脳機能研究会事務局、千葉臨床神経生理学会の事務局としても活躍されました。

学内においても、環境整備委員、図書委員、さらには千葉医学会・千葉医学雑誌の発展に尽くされ、医学部ホームページから抄録を閲覧できるように尽力されました。

医学部教授会主催の追悼式参列者をもて、名誉教授、職員、西千葉からの職員、多数の学生、他大学の先生、生理学会の役員、友人、同門にわたり、平日にもかかわらず関東はもとより岡山、和歌山、浜松、富山、群馬、埼玉、神奈川、筑波、山形、旭川からも参列され、中島先生のお人柄が反映されました。末筆ですが、皆々様から頂いた御香典は、中島先生の御遺志にそうようと、ご家族より、医学教育のため千葉大学医学部に寄付されました。学問の進歩、医学教育の改善、千葉大学医学部の発展、さらには伝統ある千葉大学医学部生理学教室を発展させるべく計画、その途上で他界され、その無念さは思いはかられるものではありませんが、残された教室員一同一丸となり、そのわずかも成就できるように日々努力いたす決意です。ゆっくりと行く末をお見守りください。(合掌)



ありし日の教授、バングラディシュよりの留学生と

情報処理を応用した胃電図解析、言語認知などの大脳高次機能解析を研究指導された。指導を受けた院生・研究生は眼科、第1内科、整形外科

さらには全国コア・カリキュラムの草稿づくりにも尽力されました。講義も緻密かつ準備周到で、大学院生が10数年まえの中島先生の生理学ノートを見ても役に立つと聞きます。バスケット部の後輩はさることながら、学生の面倒見がよく、東医体の役員として活躍されたこともありました。

全国的には、学位授与機構審査会臨時専門委員、日本学術会議の実験動物研究連絡委員会委員、国立大学

り、医学教育のため千葉大学医学部に寄付されました。学問の進歩、医学教育の改善、千葉大学医学部の発展、さらには伝統ある千葉大学医学部生理学教室を発展させるべく計画、その途上で他界され、その無念さは思いはかられるものではありませんが、残された教室員一同一丸となり、そのわずかも成就できるように日々努力いたす決意です。ゆっくりと行く末をお見守りください。(合掌)

おくやみ

- 伊藤 行男 (昭5)
- 山田 信男 (昭15)
- 河野 正實 (昭16)
- 赤石 克己 (昭19)
- 窪田 博吉 (昭20)
- 清川 八郎 (昭20)
- 鈴木 達也 (昭21)
- 太田 茂男 (昭23)
- 居谷 健吾 (昭24)
- 高野 興三 (昭24)
- 高橋侃一郎 (昭24)
- 沖山 肇 (昭24)
- 池田 文磨 (昭25)
- 彦坂 泰治 (北大昭25)
- 嶋田晃一郎 (昭37)
- 原 紀道 (昭38)
- 鈴木 盛一 (昭45)
- 後藤 哲也 (昭47)
- 菅宮 齊 (産医大昭62)

千葉県医師会 代議員一覽

(順不同、記載洩れがありましたらお知らせ下さい)

- 千葉市医師会
 - 柏戸 正史 (昭33)
 - 伯野 中彦 (昭37)
 - 奥山 隆保 (昭37)
 - 遠藤 毅 (昭39)
 - 吉田 豊彦 (昭40)
 - 関根 務 (昭41)
 - 田那村 宏 (慈恵大昭42)
 - 斉藤 俊吉 (昭和昭43)
 - 中野 義澄 (昭45)
 - 神野 弥生 (秋田大昭56)
 - 長嶋 敏晴 (埼玉大昭56)
- 八千代市医師会
 - 杉岡 昌明 (昭37)
 - 中嶋 征男 (昭47)
- 市原市医師会
 - 徳政 義和 (昭24)
 - 鎗田 努 (昭41)
 - 志村 壽彦 (昭44)
 - 麻難 薫 (新潟大昭49)
 - 小河 直之 (昭53)
 - 君津木更津医師会
 - 田中 弘一 (昭42)
 - 安房医師会
 - 青木 謹 (昭36)
 - 船橋市医師会
 - 牧野 忠夫 (昭33)
 - 阿部 一憲 (昭39)
 - 清水 正寛 (順天堂大昭48)
 - 佐野千寿子 (昭50)
 - 習志野市医師会
 - 梶本 伸一 (福島大昭39)
 - 市川市医師会
 - 国井 光隆 (昭和昭49)
- 松戸市医師会
 - 大塚 薫 (昭47)
- 印旛市郡医師会
 - 市村 公道 (昭35)
 - 黒田 健昭 (昭36)
 - 真鍋 溥 (京都大昭47)
 - 野村 泰将 (昭40)
 - 小林 英夫 (昭41)
 - 石毛 俊行 (昭54)
 - 佐原市香取郡医師会
 - 亀谷 秀夫 (順天堂大昭33)
 - 旭市海上郡医師会
 - 佐々木 守 (昭37)
 - 八日市場市匝瑳郡医師会
 - 藤田 栄一 (東京大昭37)
 - 増田 武 (日本大昭39)
 - 山武郡市医師会
 - 伊藤 俊夫 (金沢大昭36)
 - 秋葉 哲生 (昭50)
 - 茂原市長生郡医師会
 - 前田 昌利 (昭32)
 - 高瀬 学 (昭46)
 - 千葉大学医学部医師会
 - 税所 宏光 (昭40)
 - 山浦 晶 (昭40)
 - 栗山 喬之 (昭43)
 - 田邊 政裕 (昭49)
 - 千葉県下国立病院療養所医師会
 - 大塚 嘉則 (昭39)
 - 武者 広隆 (昭40)
 - 西牟田敏之 (昭42)
 - 千葉県庁医師会
 - 長山 忠雄 (昭38)
 - 安藤由記男 (昭40)

尚、7月18日千葉県医師会臨時代議員会において、青木謹代議員が代議員会議長に選出された。

クラス会

白兔会

(昭17等)

春の白兔会懇親会は、平成14年4月21日に東京駅構内の精養軒で開催した。今までよく出席していた高橋和夫は、平成13年12月22日に亡くなり、又、浦田久、下山賢次、中村泰治、松永幹らはみんな体調をくずして欠席したため、級友の出席者は僅か5名(大村光、窪田静夫、藤村満寿夫、本間哲雄、水間正冬)のみであったが、故人の奥様方が5名(浦部秀子、数馬智恵子、木村照子、橋爪文子、三浦碧子の皆様方)出席して下さったので、賑やかな会になった。

一人一人みんな近況報告や趣味のはな



しなどして2時間あまりながやかに楽しく過ごすことができた。只、残念なことには、この会の4日後の4月25日に松永幹が急逝されたのでいよいよ寂しくなりました。

写真は、前列左から浦部、橋爪、数馬、三浦、木村、後列左から本間、藤村、窪田、大村、水間。

(水間正冬)

三葉会

(昭19医専卒)

平成14年5月20・21日に山梨県山中湖ホテルマウン・ト富士にて三葉会が開催されました。本会は昔から1泊2日で和氣満ちた行われて来ましたが、会員の多くは傘寿を迎え、大部分がご隠居先生となっている昨今、毎年出席者が減少し心細い限りです。

今回、私が当番幹事を引き受けましたので、「5月の北富士の雄姿を眺める会」とすべく考えておりましたところ、昨年9月、米国同時多発テロ事件が勃発し、国内観光地は超満員との情報がありましたので、早々に出席をとり準備の必要のため、千葉県在住の村越舜三兄の応援をお願いし取りかかり返信をまとめましたところ、珍しく15人(同伴5組単身5名)と多数の参加に驚きました。ところが、開催日3週間前頃から骨折・狭心症・心筋梗塞等欠席通知が相次ぎ、結局参加者11名(同伴4組単身3名)の会となりました。

初日は恒例の如くホテル宝永の間にて総会が開かれ、物故会員の黙祷に始まり幹事挨拶の後、賑やかに懇親会に入り時間の経つのも忘



うべきか、早朝から厚い雲がとぎれ始め雄大な富士山頂が見え隠れして来たので、「助かった、万歳!」と神の恵みに感謝した次第です。一同、ホテルバスにて若葉句うさばらインをあちこちに昨夜吹雪いた淡雪の残雪と雄大な五月富士を眺めながら賑やかにドライブし五合目に到着。

五合目小御岳神社に詣で

感謝の祈りを捧げ、小憩の後スバルラインを下り、河口湖ホテルハイランドリゾートにて賑やかに昼食、明年また元気で再会を約し無事解散いたしました。

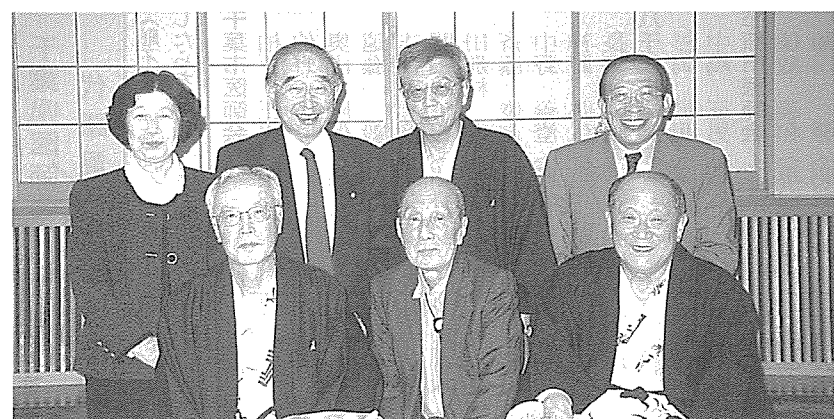
ご苦労願った村越兄は開催直前急病のため入院手術を受けましたが、先般退院元気で仕事に復帰しております。多事多難一喜一憂に富んだクラス会であったが無事終了致しました。

写真説明 当日(2002・5・21)五合目まで登山参加し

八千会

(昭26等)

平成14年5月11日(土)小雨に新緑の映える函館市に於いて地元在住の多田桂



一君が幹事として総会、懇親会が湯の川温泉郷「飛入」で開催された。

参加者は今井良夫、大沢弘和、菊島竹丸夫妻、佐藤宏、多田、森官敬君の計7名。6時過ぎ多田君の司会で開会、歓迎の挨拶の後、昨年亡くなられた梅沢恂二、河野裕、両君を含む物故会員16名への黙祷が始まる。

森会長挨拶、病氣療養で欠席の大田和明総務に代わり大沢が総務報告、会計報告、欠席の小関芳昌監事に前もって受けてあった会計監査承認の報告をし総会は滞りなく終了。

一番遠方より来会した者と言う恒例で長野の今井君の乾杯発声で懇親会に移る。例年出席の顔ぶれなので特に各自の近況報告はせず直ちに雑談に花が咲く。いささか酔いの回った頃、森会長から高齢化に伴う会員数の減少による会

の財源の窮乏、それに見合
われない従来からの弔慰金
の高額設定に就いて改善の提
案が出され討議の結果、会
費徴収方法の変更、弔慰金
の改正を行なう事を決定し
た。9時近く多田君より今
夜と明日の観光について説
明があり閉会する。次いで
予定通り函館山からの夜景
見物に小雨の中出発する。
津軽海峡に突き出た山頂の
展望台に着くと風雨強く傘
があらわれる程であったが
眼下にはその地形のままに
星屑をちりばめたような美
しい光の帯となって函館の
街が出現、しばらく見とれ
ていた。

翌12日9時近くホテルの
ロビーに集合、2日目の観
光に入る。小雨の中、日本
で最初の女性の修道院とい
うトラピスチヌ修道院に向
かう。緑に包まれた丘陵地
に中庭に聖マリア像を置く
赤レンガ作りの建物で、現
在も多数の修道女が敬虔な
祈りと戒律の中で生活して
いるとか。暫く庭で写真を
撮りあい資料室に入ると微
かに賛美歌が流れ厳肅な気
持ちになった。

ジャンボタクシーで一路北
の大沼国定公園へ。昼近く
雨はやんだが雲で見え隠れ
する駒ヶ岳を背景に静寂な
たたずまいを見せる小沼大
沼を左に見て湖畔を半周、
昼食予定の大沼プリンスホ
テルに着く。美しい白樺の
並木を抜け、ゴルフ場を前
庭におくコテージ風の会食
場に入る。菊島君差し入れ
の冷えた大沼ワインで喉を
潤し7名で円卓を囲みお弁
当を開きしばし談笑する。
これより予定の函館市内観
光に移るべく帰路に着く。
湯の川にマンションを持つ
捻挫後遺症に悩む森君を降
ろし、海岸沿いの278号を一
路東に、沿道ぞいの啄木小
公園に立ち寄った後、眼下
に荒波が打ち寄せ遠く下北
半島、左に大森浜が弧を描
く壮大な風景の立待岬を経
て函館山の麓を左にまわり
こみ元町に向かう。車を降
り明治43年に完成したと言
われる正面「階」バルコニー
を置き両側対象にコロニア
ル様式の美しい洋風建築旧
函館区公会堂から順次カト
リック教会、ハリスト正教
会等、多田君の案内で函館
港を見下ろす美しい坂道の
風景を写真に納めつつ皆で
そぞろ歩く。なにか異国の
地を散策しているような気
持ちになった。その後ベイ

エリアに下り港の風景にマッ
チする赤レンガ倉庫群を回っ
て下車、魚市場、明治館の
順にショッピングを楽しむ。
魚の種類が多さ、その加工
品の豊富さに目を見張る。
明治館は一階はライトに輝
くガラス工芸品、二階は種
類の多さに戸惑うオルゴール
売り場、孫娘など連れて
きたらさぞ待たされる事だ
ろうなどと思いながら土産
物を物色する。
夕刻、湯の川の鮭屋に着
くと先の下車した森君が席
をしつらえ待っていた。先
に帰路につかれた佐藤君を
除いた6名で一泊二日の、こ
の会が無事終了した事、多
田君には短い時間にガイド
ブックにあるめばしい所を
殆ど網羅し案内して頂いた
事、感謝を込めて乾杯。来
年元気に千葉で再会する事
を胸に解散した。

雨久会
(大沢弘和)
(昭29迄)

われわれの会は年に一度
各地でおこなっているが、
本年は6月1日(土)野口
(銚子市)、大津、竹内(旭
中央病院)の幹事のお世話
で、銚子犬吠崎のぎょうけ
い館にておこなわれた。こ
の旅館は当地でもっともふ
るく、館内には伊藤博文の



書そのほか由緒あるものが
いたるところに掲示されて
いた。36名の出席、うち6
組は夫妻であり、また窪田
靖夫先生(昭28)の特別参
加があった。もっとも遠方
からは和歌山県白浜の三谷
であった。ぎょうけい館の
なりたちの説明や幹事の挨拶
もそこそこ酒宴になり、
近況や世相などの話でもり
あがった。翌日はゴルフ組と
観光組に別れ、それぞれ楽
しい一日をおくった。ゴル
フは優勝野口、準優勝和田

また観光は文
化財審議会委
員の永澤先生
がバスにお乗
りくださり、
いろいろ案内
していただいた。
ヒゲタ醬
油の醬油瓶を
お土産にいた
だき解散した。
(参加者)
朝岡威親、有
馬道男(夫妻、
梅村喜夫、大
津正典、岡野
正、奥平昌彦、
川野元茂、窪
田叔子(夫妻、
小出紀、柴田
千葉男(夫妻、
島崎淳、鈴木
日出和(夫妻、
竹内信輝、遠山正道、富岡
正光、中島哲二、中野操一
(夫妻)、中山宗春、西三郎
根本幸一、野口晃平、長谷
川透、羽生富士夫、樋口道
雄、福井朗、福田恵司、三
谷寿美(夫妻)、若菜坦、
和田房治、渡辺四郎
(島崎 淳)

参旧会
(昭39迄)



今年山梨県が当番で、
5月11日(土)、12日(日)
富士山麓で開催された。最
近、4年間観光をかねて一
泊で行われるようになり、
年々同伴者が増え、今年は
54名の参加となった。日本
庭園の美しいホテル鐘山苑
に宿泊した。記念撮影のあ
と総会を開いたが、この一
年物故者もなく皆で健康を
喜び合った。定年退官の近
づいた会員が何人もおり、
そのときは盛大に退官記念
パーティーを、又、2年後
には卒業40周年を迎えるの
で、千葉市において記念式
典の開催が決まった。

続いて昨年の幹事、重松
秀一君の乾杯の音頭で懇親
会が始まり、全員から楽し
い近況報告があった。二次
会はホテル内のカラオケル
ームを貸切にして2時間楽し
んだ。歌う人、昔話に話を
咲かせる人色々で、ご夫人
たちは同じテーブルに集ま
りひととき話がはずんだよ
うである。

翌日は観光組とゴルフ組
に別れ、観光組は富士五合
目を散策、森林の中のシル
バンズで地ビールを飲みな
がら昼食、午
後は久保田一
竹美術館、オ
ルゴール館を
見学してゴル
フ組と合流し
て帰路につい
た。ゴルフ組
は毎年女子プ
ロトーナメン
トの行われる
難コース富士
桜カントリー
クラブに17名
が挑戦した。
野草が咲き乱
れ、雉の鳴き
声の聞えるの
どかな閑古
ろでプレーを
楽しんだ。
来年は角張
雄二君が幹事

で神奈川県での開催が決まり、箱根での再会を約して散会した。

(清水 天)

各地のほな会 だより

江戸川るのほな会

平成14年6月29日東京江戸川るのほな会総会並びに懇親会が市川市「栃木屋」で開催されました。当日は雨模様の曇り空であったが、幸い降り出さず、まずまずの天候でした。大学から眼科学教室の安達恵美子教授、感染生体防御学教室の矢野



明彦教授及び分子ウイルス学教室の白澤浩教授のお三方の御出席をいただき、又、厚生労働省より遠藤弘良先生(昭55)の御来臨をいただきました。遠藤先生は静岡での講演会のおと、かけつけて下さいました。総会は村瀬会長挨拶からはじめ、型の如く、事業報告、会計報告、監査報告が行われ満場一致で承認されました。今年度は、役員交替があり、新しく会長に藤山嘉信(昭30)幹事に岩倉弘毅(昭37)会計に森照男(昭53)(留任)が就任致しました。主な議題としては、江戸川区に約40人いる会員のうち若い会員の総会出席をいかに多くするかが議論されました。続いて懇親会に移り、山上健次郎先生(昭17)の「乾杯」の御発声で開宴となりました。安達教授から千葉大学の近況と将来像について、又、眼科教室についてのお話をうかがい、続いて矢野教授、白澤教授の教室の紹介と現況についてお話があり、興味深く拝聴致しました。特に

矢野教授の悪性腫瘍と寄生虫病との別についてのお話は、興味をひきました。やや遅れて、遠藤先生が到着され、最近の厚生行政について御説明がありました。その後出席会員の自己紹介や近況報告があり、和気あいあいとしたのも忘れ最後は、カラオケで皆さん得意のノドを披露し、午後9時すぎに、おひらきとなりました。

当日の会員出席者。山上健次郎(昭17) 神山一郎(昭24) 一志典夫(昭25) 鈴木正一(昭28) 村瀬靖(昭30) 藤山嘉信(昭30) 伊谷昭幸(昭30) 福田陽(昭32) 岩倉弘毅(昭37) 森照男(昭53) (岩倉弘毅・昭37)

北陸るのほな会

今年度の北陸るのほな会は平成14年4月26日に富山市の奥田屋で行われました。今年は北陸でも例年のように厳しい冬が終わったと思っただけという間に桜が咲き、あっという間に散ってしまいました。今年は新しく富山医科大学第二外科に野沢聡志先生(平2)をお迎えしその歓迎会とともに、平成13年9月で富山医科大学医学部長の任

を終えられた寺澤捷年先生(昭45)の慰労会をかねて開催されました。会は富山医科大学名誉教授辻陽雄先生(昭33)の御挨拶に引き続き、金沢医科大学教授高橋弘先生(昭42)による乾杯の御発声で宴が始まりました。その後、各人の近況報告、寺澤先生より富山県内3国立大学の統合問題、独立行政法人化などのお話がありました。3大学が1つになるというのは、当たり前のことですが、将来のビジョンの食い違い、既得権の確保などさまざまな問題があるようです。医療をとりまく状況は年々危機的にさえなっ



ているような気もいたしますが、そこは厳しい冬をとものに過ごしている北陸るのほな会の面々です。皆様と乗り切っているのではと思ひます。不景気な話ばかりではなく、千葉での学生時代の話や、富山医科大学創立当時のお話など、おおいに盛り上がり、楽しい歓談のひと時を過ごされました。最後に富山医科大学

科名誉教授片山喬先生(昭30)のご挨拶にて宴のお開きとなり、近々の再会を期して写真撮影となりました。出席者は以下の通りです。片山喬(昭30)、辻陽雄(昭33)、高橋弘(昭42)、磯村勝美(昭43)、星山圭鉦(昭44)、寺澤捷年(昭45)、濱崎智仁(昭46)、布施秀樹(昭51)、檜山幸孝(昭51)、大野博司(昭58)、古谷雄三(昭61)、村上尚(昭61)、野沢聡志(平2)(古谷雄三・昭61)

習志野るのほな会

習志野市医師会の会合の時に、医師会の中で同窓の

親睦をより緊密にするために、同窓として長らくお世話になった五十嵐正彦院長(昭34)と伊藤文雄副院長(昭37)の謝恩・送別会を兼ねました。平成13年11月、第4回目の集会をザ・クレストホテル津田沼で行いました。

第5回目は平成14年6月、ザ・クレストホテル津田沼の廃業に伴い、会場を銀座アスター津田沼沼館で行いました。今回は国立習志野病院から移行した千葉済生会習志野病院の真家雅彦院長先生をはじめ、外科の山本先生、林先生、内科の降先生、小林先生が出席されました。和やかな雰囲気の中でスピー



平成13年5月、第3回目をザ・クレストホテル津田沼にて行いました。

チが行われ、2002年ウィーン
ニューイヤークンサートの
話、登山の話、小児喘息の
重症患者が少なくなった反
面麻痺患者が多くなったと
しているという話、今回の診
療報酬改定はムチャクチャ
で患者にも説明できない悪
法だ、何で、こんな悪法を
日医が飲んだのかという意
見、最近の外科治療は今
までと違ってきているとい
う話、自分で行っている健
康保持の話などいろいろな
問題や役立つ情報が述べ
られました。

平成14年度
千葉県の
総会報告

千葉県のはな会
（栗原伸夫・昭38）

今回得られたこれらの情
報と友情をエネルギーにし
て明日からの診療や生活に
邁進しようと誓い合って会
を終りました。

平成14年5月25日（土）
午後2時より、JR千葉駅
ペリエホールに於いて開催
された。武者廣隆（昭40）
理事の司会により、開会の

辞を大浜博利（昭27）理事
が述べ、ついで13年度物故
会員7名のご冥福を祈って
黙祷を捧げた。続いて渡辺
会長が挨拶のなかで、年齢
からも体力の衰えを感じる
ようになり、なおブライマ
リー・ケア学会の仕事で全
国を廻るハードスケジュール
があつたと1年経つので、当
会創立以来2期6年間勉め
た会長を辞職したいと述べ
られた。

恒例により議長に会長を
選出し議事に入り、会務報
告を大浜理事、会計報告を
阿部一憲（昭39）理事、監
査報告を三枝一雄（昭32）
監事が行った。ついで会則
一部改正について武者理事
から説明があり、第5条2
項に「本会に顧問を
置くことが出来る。」
を追加、第16条に
「(1) 会誌の発行。(2)
各支部の活性化。」
を追加する案が、ま
た役員改選について
神田收茲（昭32）理
事より次のように改
正することが上程さ
れ、すべての議事が
承認された。



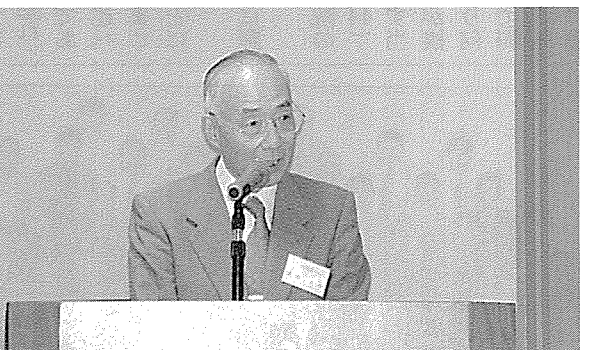
「庶務」茂又眞祐先生↓中
村孝雄先生（昭48）
大藤政雄先生↓木元博史先
生（昭61）
「事業」大浜博利先生↓加
藤友衛先生（昭38）
「支部長」大浜博利先生↓
神田收茲先生（昭32）
近藤洋一郎先生の来賓接
拶の後、新会長に就任した
大浜、ならびに新副会長の
大藤先生、新理事の木元先
生がそれぞれ挨拶にたち、
今後の当会の発展のための
抱負を述べた。

続いて、大浜会長から退
任役員の渡辺、香田先生に
対して記念品が贈呈され、
両先生より謝辞があり、大
藤先生の閉会の辞で総会は
終了した。

「当世初等教育事情」
一新学習指導要領で
立派な国民が育つ
か」と題して、習志
野市教育委員の栗原
伸夫先生（昭38）の特別
講演が行われた。要
旨は、今年ほぼ10年
ぶりに文部科学省が
改訂告示した「学習
指導要領」は、小・
中学校の週休2日制
が今年から、高校は
来年からである。小・
中の授業時間はほぼ2割減
（小学校では、授業の根幹
をなす国語は35→45時間、
算数25時間、体育15時間、
中学校では国語35時間、数
学35時間、体育15時間の削
減）教科学習の内容はそれ
以上に減らして、基礎、基
本をしっかり学ばせると
いうものである。今回の改
訂の特筆すべき事は「総合
的な学習の時間」が小学3
年以上に新設されたことで
ある。通常の教科とは別に
総合的学習という、先生の
いない授業？なのか、遊び
なのか。他の公務員と同じ
ように、土曜日を先生の休
みにしたので、その穴埋め
に作ったようにも考えられ
る。新教科書の検定では、

今まで記述されていた事柄
が「高度すぎる」という理
由で削除された例が、特に
理科系に多い。先ごろ公表
された高校の指導要領も問
題である。8年前から高校
で学ぶ理科は以前は3科目
であったのが、2科目だけ
でよかった。これが今、
問題になっている生物を学
んだことのない医学部学生、
物理を学んだことのない工
学部学生が誕生した原因な
のである。理数離れを食い
止めたために、文科系に
行く人は、「数学基礎」
「数学基礎」が新科目とし
て新たに作られた。しかし
内容は「程度が高すぎる」
ということと削除されたも
のが多い。学力の低下に拍

車がかかる傾向はすでに現
れており、大学入試センタ
ーが4年前に行った国立大学
学部長へのアンケート調査
では55%の学部長が新入生
の学力が低下していると答
えている。翌年、朝日新聞
で全国の大学学部長へのア
ンケート調査ではなんと93%
の学部長が学生の学力低下を
感じると答えたそうである。
そこで一般に言われている
事は、「ゆとり教育」が
進むにつれ学力が低下して
いることを考えると、今回
の新指導要領ではさらに低
下すると考えるのが自然で
あろう。更に小学校4年生
から、算数の計算は、電卓
パソコンなどを使ってよい
といっている事にはあきれ
るばかりである。算
数の勉強は頭の体操
といわれているよう
に、自分の頭で考え
計算し答えを出すも
のである。それなの
に「分数にしても、
少数にしても重要な
事は分数や少数の意
味を理解する事であ
つて、計算機の方が
計算を正確かつ迅速
にしてくれるから、
計算は計算機に任せ
るべきだ」といって
もない事を文部科学
省の人は言っている。



「ゆとり教育」というな
んだかわからないスローガ
ンのもとに策定された指導
要領で授業時間の削減や内
容の後退があったため、い
つもは沈黙していた政治家
までもがおかしいと言いつ
つ出している。外からの意見が
厳しくなるにつれて、文部
科学省は新学習指導要領の
内容をはじめは上限として
いたが、いつのまにか「最
低基準」と言い直し、これ
を超える教育も教育委員会
や教師の裁量で可能と説明
している。「ゆとり教育」
の名前の下に、授業につ
いていけない子供に照準を合
わせて作られたものである
という事は明らかである。
昭和55年から「ゆとりあ

る教育」という観点から学習指導要領が見直されて、授業時間の削減、カリキュラムの見直しが行われ、それ以降、選択教科の拡大、そして今年度から「総合的な学習時間」の新設が行われた。このような国策の影響を受けて、塾の利用や家庭での学習も減少してきている。今年から学校5日制になると、ますます家でも学校でも勉強しない子供が増え学力の低下が顕著になる。さらに家庭の教育力と親の教育に対する熱心さの欠如がこれに拍車をかけるであろう。文部科学省の次官通達では子供達の、地域や家庭での生活時間の比重を高めて、主体的に使える時間を増やすことだとしているが、お父さんはゴルフやレジャーに、お母さんはパート勤めや友達との付き合いで外出していたのでは、子供は好きなように時間をすごすのは自然である。ゲームやコンビニでの買い物、友達との遊び、携帯電話、メールなど大人のわからない遊び方をするだろう。家庭が教育力を失っている現状、地域の連帯感の希薄になった都会では無理である。もう一つ注目すべき事は、体育の時間も15時間減らされている事である。体を動

かさない時代の子供たちは確実に運動能力が衰えて来ている。毎年発表される基礎的な運動能力の調査で、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、ハンドボール投げの能力は年々劣ってきている。このことはまた精神力の低下にもつながる事であろう。今の日本の子供たちの大きな問題は精神力の欠落である。意欲、活力、忍耐力、競争心などがこれからの日本に必要とされるからだ。今のような教育体制では、立派な国民は育たないということである。(講演の詳細は「千葉県るのはな会誌」3号に掲載予定)

引続き懇親会が行われ、2つのテーブルを囲んで和やかなうちに、出席者全員のスピーチをいただき盛会に終わった。

「出席者 福岡誠吾(昭19)、国井光智(昭21)、石橋祝(昭22)、萩原彌四郎(昭23)、宮崎隆次(昭23)、渡辺武(昭27)、大浜博利(昭27)、大藤正雄(昭29)、香田真一(昭31)、三枝一雄(昭32)、神田收茲(昭32)、野口照義(昭32)、栗原伸夫(昭38)、若新政史(昭38)、阿部一憲(昭39)、本村八重子(昭39)、坂田晃康(昭39)、瀧澤弘隆(昭40)、

静岡県支部総会

武者廣隆(昭40)、永野耕士(昭48)、秋葉哲生(昭50)、木元博史(昭61)以上22名

(大浜博利・昭27)

ちょうど梅雨明け宣言の出た強い陽射しの7月20日、静岡市のセンチュリーホテル静岡にて2年に1度の支部総会が熱海の佐藤通副会長(昭35年)を中心に東部地区の担当で開かれた。

これまで東部・中部・西部が輪番で幹事を務め、それぞれの地域で開催してきたが、離れた地域からの参加が少なくなったという意見が強かった。そのため今後は担当地域に関わらず県中央の静岡市で開くという方針が打ち出されて最初の開催になった。また例年の真夏よりも秋に開催したいという意見もあったのだが、結婚シーズンと重なって会場が取れず、結局このような時期になってしまった。夏休み初日で連休初日ということもあって当初の意図に反し、残念ながら参加者が増えたとは言えなかったが、各世代から44名が参加してくれた。

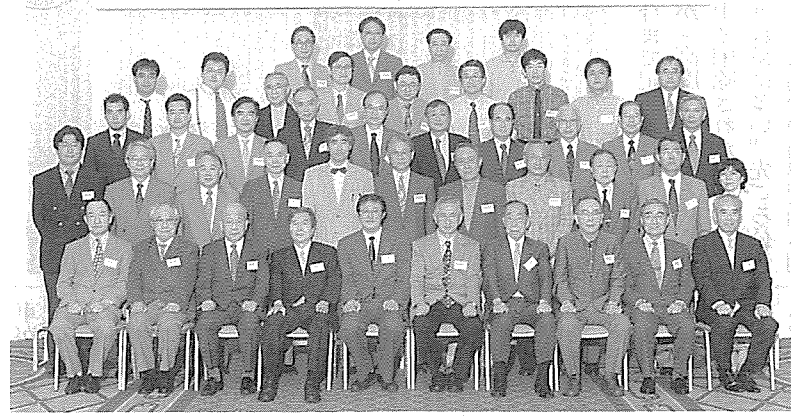
今回はまず議事総会が中山博先生(昭37)の司会で

進められ、野末道彦支部会長(昭33)の挨拶のあと、この2年間に亡くなられた8名の会員に対して全員で黙祷を捧げた。続いて宮本恒彦常任理事(昭54)より庶務報告、笠松紀雄常任理事(昭56)から会計報告があった。特に議論になるような議題はなく役員改選や会計報告が拍手で承認され終了した。

引き続き大学から精神科の伊豫雅臣教授をお招きし、「不安障害について」と題して記念講演が行われた。一般臨床医が日常的に遭遇するような不安を抱える患者の治療について、専門医の立場から具体的な対処法が分かりやすく述べられた。また、そもそも「不安」とは「対象が漠然とした恐れ」であり、対象が具体的であれば「恐怖」との違いを述べられ、意外に定義のままこの言葉を使っていることに気づかされた。

恒例の写真撮影の後に懇親会に移った。

懇親会には沼津市立病院の佐々木健身先生(昭和44)が進行を務められ、まず当番世話人の佐藤通先生が挨拶された。準備にあたり何度かホテルに足を運んで料理を吟味したメニューであることを強調されたが、実



際今回は特に充実したメニューであったことは多くの参加者が感じていたことである。乾杯の発声は佐藤副会長のアイデアで、通例の長老ではなく逆に最も若い会員にやってもらおうということになり、沼津市立病院の古田俊介先生(平12)が少々戸惑いながらも無事役目を果たされた。とかく勤務医は在任期間が短いこともあってか同窓会に無関心になりがちであるが、もっと積極的に同窓の輪に入って活動して欲しいという佐藤先生

のアピールでもあった。伊豫教授には大学の最近の様子をお話いただき、亥鼻キャンパスに薬学部が移るというニュースなどに改めて世の中の動きを感じた会員も多かったように思われる。

宴席では席を替えながら仲間同士の歓談が続いていたが、気軽にどんどんスピーチをという趣向で司会者の指名により多くの方が登壇された。新規開業の挨拶、転任の挨拶など内容は様々であった。このような場では形式的な挨拶に終わってしまうことも多いのだが、松浦徳久先生(昭27)は静岡市の福祉行政に長く携わっている経験から、介護保険の主治医意見書の内容がお粗末であり、この面での医師の役割を自覚してもらって欲しいとの注文もついた。もちろんこれは同窓に限る問題ではないのだが、仲間としてお互いにレベルアップするよう心がけることも大切である。

最後に佐藤副会長が締めくくりに挨拶をされた。その中で今回の総会の案内に対して返事しない会員が少なくなかったことを指摘され、社会人としてのルールなどをしっかり身につけて欲しい旨発言された。千葉大学は他大学に比べて同窓としての団結に欠け、そのような体質が自由な意見交換を阻み結果として社会で糾弾される事件に関わるようなこともあり、同窓生としてのつながりを生涯教育に役立てるようになるとも重要な役割であろうと強く訴えられた。同窓会というものが今後どのように位置づけられて行くべきなのか、大いに考えさせられるアピールであった。

当県支部では2年に1度の総会が主たる行事になっているが、日常的にいろいろな機会を通じて交流を深める必要がある。支部会報の発行や名簿の整備などとともに、各地域での会合なども積極的に開くようにしたいものである。次回の総会は2004年に西部地区の担当で開催される予定である。(宮本恒彦・昭54)

平成14年度
るの は な 同窓会総会議事録

日時
平成14年6月22日(土)
14時

場所
千葉スカイウィンドウ
ズ東天紅

鈴木理事の司会、近藤副
会長の辞により、開会とな
った。物故者に黙祷を捧げた
後、長澤会長よりご挨拶が
あった。

会務報告

鈴木理事より、昨年度の
会務報告がなされた。庶務
関係として、各会議、各支
部との交流について説明が
あった。会計関係として決
算の概要、事業関係として
学外研究助成、同窓会賞、
同窓会報の概要について説
明があった。

議 題

長澤会長が議長に選出さ
れた。
一、平成13年度決算案につ
いて
木内理事より、決算内容
についての説明と、笠川、
秋葉両理事より、監査報告
があり、決算案が承認され
た。
二、平成14年度事業計画に
ついて
滝口理事より、会報発行

報告事項

一、学外研究助成選考につ
いて

各種同窓会賞・助成授与、
会員名簿発行、同窓会活性
化施策、大学院化・独立行
政法人化への対応、同窓会
支援センター構想について
説明があった。貫洞参与か
ら、各課題に対する委員会
の設置、会報への公示・報
告について提言があった。
三、平成14年度予算案につ
いて

木内理事より、支部支援
ホームページ・会報の充実
等、前年度との相違点につ
いて説明があり、予算案が
承認された。
四、名誉会員の推薦につ
いて

近藤副会長より、平成14
年3月に退官された安達元
明、今野昭義両教授の名誉
会員への推挙について説明
があり、承認された。
五、役員の交代について
白澤理事より、茂又理事
から神田理事への、中島理
事から伊豫理事への、国井
理事から秋葉理事への、阪
理事から吉川理事への、吉
川代行から林田代行への交
代について説明があり、承
認された。

助成金(洪勝男君)の贈呈
式が行われた。長澤会長の
ご挨拶に続き、目録が授与
された。各贈呈者のご挨拶
を頂いた。

るの は な 同窓会賞表彰式

矢野理事の司会のもと、
功労賞(志村昭光先生)、
学術賞(喜多和子先生、田
中尾篤人先生)、吉留博之先生
の表彰式が行われた。長澤会長のご挨拶
に続き、表彰盾が授与さ
れた。各受賞者のご挨拶を
頂いた。

自由討論および研究院長講
話

同窓会活性化の話題を中
心に活発な討論が行われた。
福田研究院長から、独立行
政法人化に伴う変革の見通
し等についてお話を伺った。

懇 親 会

滝口理事の司会、小畑副
会長の辞により、開会とな
った。長澤会長のご挨拶、貫
洞参与の乾杯ご発声に始ま
り、楽しい歓談の時を過ご
した。学外研究助成受賞者
を代表して佳原英千代先生
、櫻井幸弘先生、力久直昭先
生からご挨拶を頂いた。多
くの出席者から近況なども
伺い、有意義な会であった。
近藤副会長の辞により閉会
となった。

平成13年度決算報告

収入の部

款 項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対予算額 (円)
会 費 等	22,900,000	23,201,750	301,750
他 会 計 以 外 受 入	1,300,000	2,043,243	743,243
寄 付 金	3,940,000	4,432,866	492,866
雑 収 入	40,000	94,024	54,024
(当期収入計)	28,180,000	29,771,883	1,591,883
前年度繰越資金受入	6,785,601	6,785,601	
収 入 合 計	34,965,601	36,557,484	1,591,883

支出の部

款 項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対予算額 (円)
総 務 費	10,820,000	8,086,660	2,733,340
事 業 費	18,910,000	18,554,383	355,617
予 備 費	1,935,601	750,800	1,184,801
積 立 金	3,300,000	300,000	3,000,000
次 期 繰 越		8,865,641	-8,865,641
支 出 合 計	34,965,601	36,557,484	-1,591,883

平成14年度予算

収入の部

款 項 目	平成14年度予算額 (円)	平成13年度決算額 (円)	対前年度決算額 (円)
会 費 等	23,000,000	23,201,750	-201,750
他 会 計 以 外 受 入	40,000	2,043,243	-2,003,243
寄 付 金	2,880,000	4,432,866	-1,552,866
雑 収 入	105,000	94,024	10,976
(当期収入計)	26,025,000	29,771,883	-3,746,883
前年度繰越資金受入	8,865,641	6,785,601	2,080,040
収 入 合 計	34,890,641	36,557,484	-1,666,843

支出の部

款 項 目	平成14年度予算額 (円)	平成13年度決算額 (円)	対前年度決算額 (円)
総 務 費	11,820,000	8,086,660	3,733,340
事 業 費	19,510,000	18,554,383	955,617
予 備 費	460,641	750,800	-290,159
積 立 金	3,100,000	300,000	2,800,000
次 期 繰 越		8,865,641	-8,865,641
支 出 合 計	34,890,641	36,557,484	-1,666,843

●猪鼻城跡

(千葉大学亥鼻地区構内遺跡)

千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会

(2002・8・5)

◇はじめに

千葉市の猪鼻城跡を擁する台地上は、昭和34年に「猪鼻城跡」として千葉市の指定史跡の認定を受けています。過去の発掘調査などで弥生中期・土墳・奈良・平安・中世・近世にわたる人々が生活していた痕跡が確認されています。この度、千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会では、千葉大学医学部総合研究棟建設事業に伴い、本年度5月より発掘調査を実施して来ました。ここに現況における調査成果の概要をお知らせいたします。

◇亥鼻城跡(千葉大学亥鼻地区構内遺跡)の発掘調査について

発掘調査によって検出された主な遺構は、後世の造成・攪乱などによって遺存状態は良くありませんが、弥生時代後期から古墳時代前期(約2000～1900年前)にか



けての堅穴住居跡6軒、古墳時代後期(6世紀末)の木棺直葬墓1基、前方後円墳(6世紀末～7世紀初)1基、前方後円墳の周溝と考えられる溝状遺構1条、奈良時代と考えられる有天井土坑墓2基などです。これらの発掘成果から、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては「集落跡」、古墳時代後期以降は「墓域」として使用されていたと言えるでしょう。

なお今回の発掘調査の成

◇発見された遺構と遺物

●旧石器時代(約19000～15000年前)に比定される切り出し形のナイフ形石器が出土しました。現況における猪鼻台地上の最古の遺物と言えるでしょう。

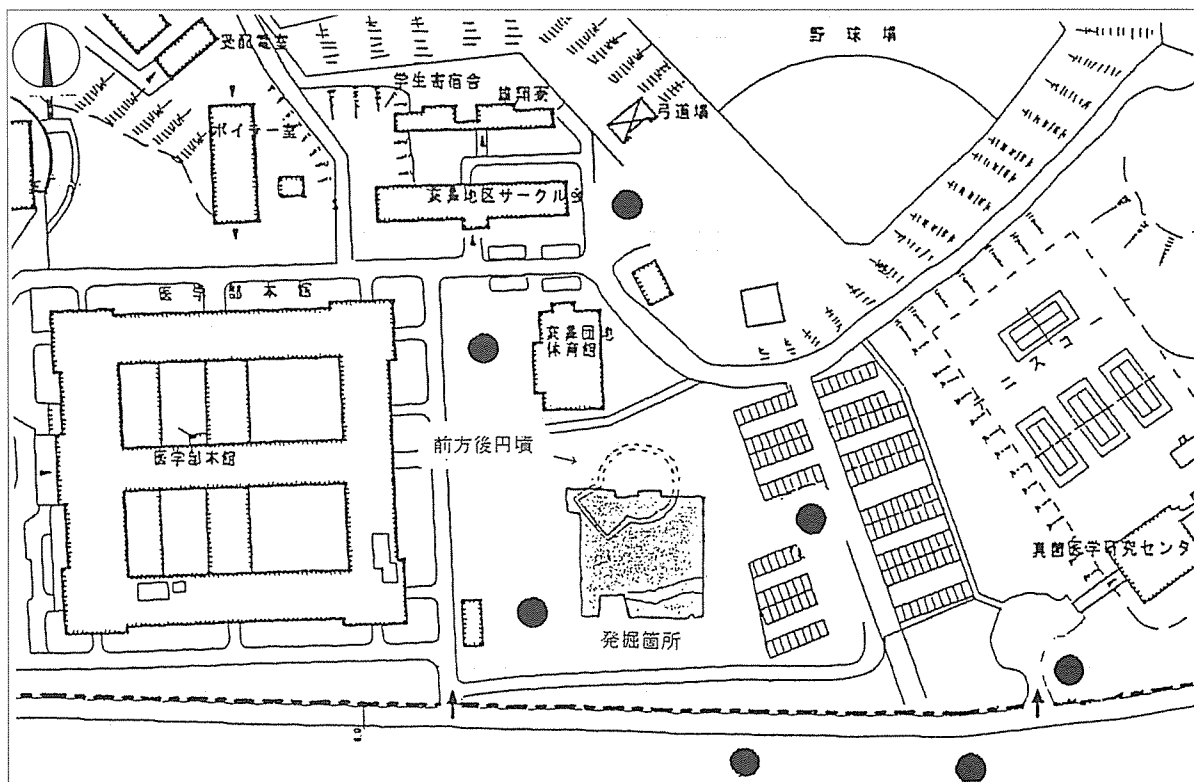
●縄文時代(約9000～3000年前)に比定される縄文土器の破片が出土しましたが、それらに伴う遺構は発見されませんでした。

●弥生時代後期～古墳時代前期(約2000～1700年前)に比定される堅穴住居

跡が6軒発見されました。その内4軒(第1・4・5・6号住居跡)は弥生時代後期に比定されると考えられます。住居の形状は、径5m前後で小判形を呈し、5本の柱が建っていたと考えられる柱穴や、くぼみ状の炉跡があります。これらの住居跡の床面直上からは多くの炭化物や焼土がみられたことから火災による焼失住居と考えられるでしょう。なお出土した遺物は、弥生土器の破片などです。

また残りの2軒(第2・3号住居跡)は古墳時代前期に比定されると思われますが、後世の攪乱がひどくみられ遺存状態は良くありません。なお第3号住居跡からは、糸を紡ぐのに使用されたと考えられている紡錘車や土器片が出土しました。また部材が組み合わされた状態の炭化材が発見されました。

●古墳時代後期以降(6世紀末～7世紀以降)に比定される墓坑が5基発見されました。木棺直葬墓1基は、地山を掘込み粘土で木棺を固定し埋葬された墓坑と考えられ、副葬品として鉄鍔(鉄のヤ



● 七天王塚

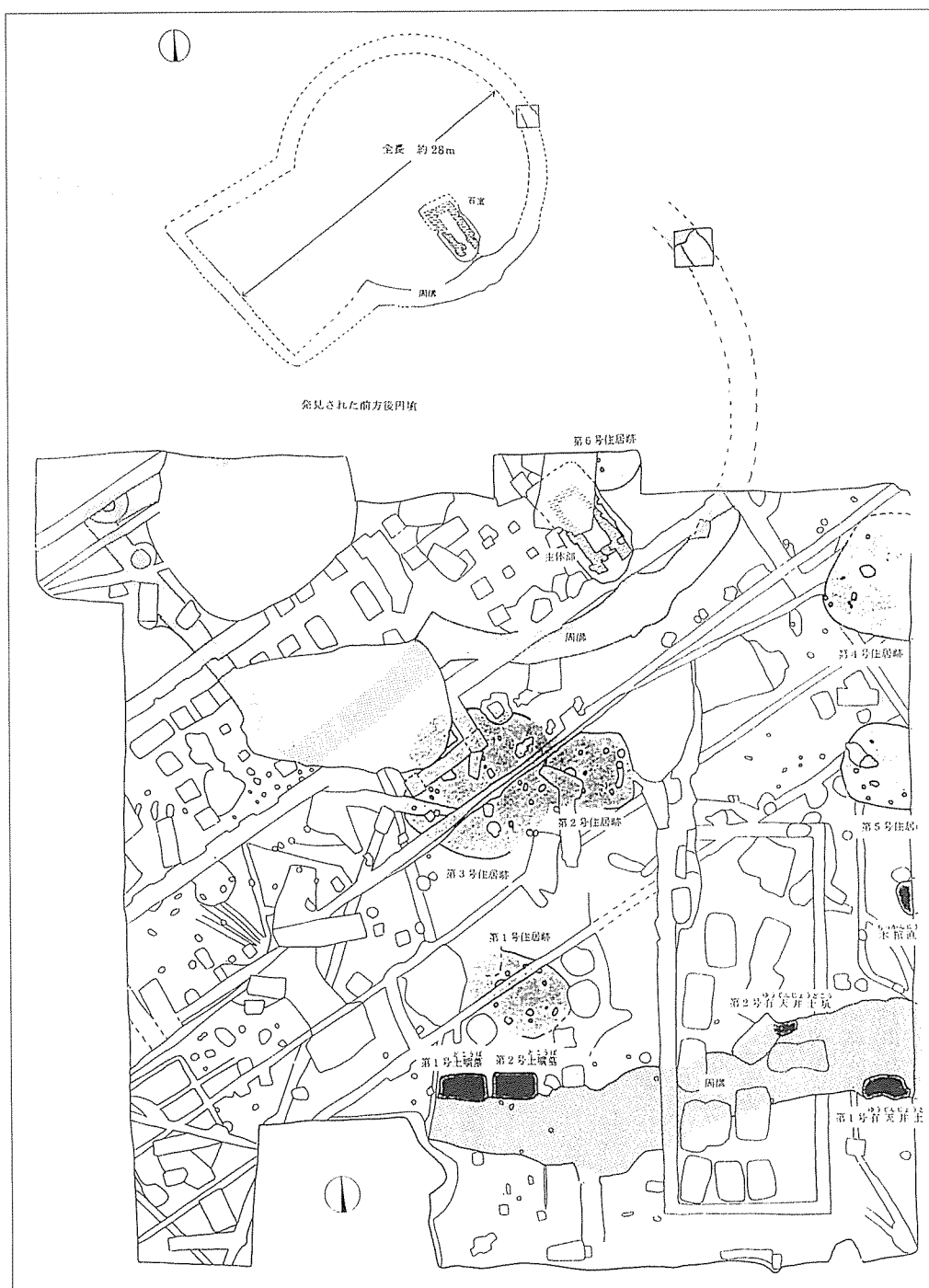
七天王塚と発見された前方後円墳の位置



写真撮影
福田康一郎医学研究院長

ジリ)が10本以上発見されました。この他にも古墳の周溝と考えられる溝状遺構に伴って地面を掘り込み、遺体を埋葬したと考えられる土坑墓が2基、さらに丁度遺体の上に天井がさし出しているような有天井土坑が2基検出されました。これらの土坑墓からの出土品はほとんど無く、詳しい年代を確定することが出来ませんが、他の遺跡で6〜7世紀の古墳に伴って作られている例が多くみられます。このような他の事例からも古墳の周溝と考えられるでしょう。なおそこからは、鉄地金銅張りの金具や須恵器などが出土しました。

●前方後円墳(6世紀末〜7世紀初) 推定全長28mを計る前方後円墳で、七天王塚のほぼ中心に位置しています。本来は墳丘があったのですが、過去の造作などによって失われ、主体部(石室)と周溝の一部が発見されました。古墳の内部施設である主体部は、後円部の南東に位置し、埋葬者の頭位は北西を向いています。主体部(石室)の構造は、軟質砂岩の切石を用いて構築されていますが、天井部等は残念ながら失われています。主体部内からは金環(耳飾り)や不明鉄製品、人骨・歯が出土しました。また周溝からは馬具と考えられる轡や鉄鍬などの鉄製品や、須恵器などが出土しました。



猪鼻城址(千葉大学亥鼻地区構内遺跡)の発掘調査範囲

千葉大学校友会設立総会について

千葉大学では各学部の同窓会会員と教職員をまとめた全学的な組織として校友会が設立された。学内外で学部の枠を越えて親睦、情報交換や連携協力を図り、独立行政法人化など国立大学の改革が進められる中、千葉大学の発展と社会に貢献することを目的としている。

設立総会は去る三月一日幕張プリンスホテルで開催された。総会には各学部同窓会会員や教職員約五百名が出席した。その内、るのはな同窓会、医学部、附属病院関係者は百三十数名であった。

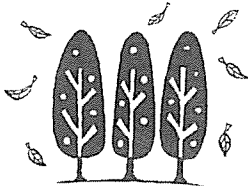
た。

磯野可一学長の挨拶の後、設立経緯説明、会則承認、役員選出が行われ、磯野学長が会長に選出された。ついで記念シンポジウム「千葉大学校友会の今後のあり方」が行われ、各学部同窓会の状況と校友会への希望が述べられた。のはな同窓会からは近藤洋一郎副会長がスピーチとして参加した。



続いて秋山衛教育学部教授のテノール独唱による記念コンサートが行われ、日本歌曲、イタリア民謡など絶賛を受けた。その後の懇親会では会長挨拶、吉成儀顧問(京葉銀行会長)の米賀挨拶があり、岡田副会長(教育学部同窓会長)の

乾杯の発声で開宴された、学生の独唱、ピアノ演奏などがあり、和やかな雰囲気の中で盛会裏に閉会した。次回の総会は十月五日(土)に開催する。



千葉大学校友会会則

(平成14年3月1日制定)

第1章 総則

(名称と事務所)

第1条 本会は、千葉大学校友会と称し、事務所を千葉大学総務部に置く。

(目的)

第2条 本会は、千葉大学及び各学部同窓会の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦・情報交換を図り、併せて社会に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- 一 千葉大学の教育研究の支援事業
- 二 総会及び親睦会の開催
- 三 講演会、文化行事等の開催
- 四 その他理事会が必要と認めた事業

第2章 組織

(会員)

第4条 本会の会員は、次の各号のいずれかの者とする。

- 一 千葉大学に置かれているいずれかの学部同窓会の会員
- 二 千葉大学教職員又は教職員として在職していた者
- 三 本会の趣旨に賛同する者で理事会が認めたもの
- 2 前項第2号の会員の範囲については、理事会において定める。

(賛助会員)

第5条 賛助会員は、次の各号に該当し、理事会が認めたものとする。

- 一 前条の会員以外の者で、本会に貢献をしたもの
- 二 産官学連携事業の推進に協力した企業

(役員)

第6条 本会に、次に掲げる役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 3名
- 三 常任理事 10名以内
- 四 理事 30名以内
- 五 監事 2名

2 役員には、次の者をもつて充てる。

- 一 各学部同窓会会長
- 二 各学部同窓会から推薦された会員
- 三 第4条第1項第2号の会員のうちから選出された者

3 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、原則として6年を超えることができないものとする。欠員が生じた場合の後任役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の選出)

第7条 役員は、総会においてこれを選出し、副会長3名のうち1名は、第4条第1項第2号の会員から選出する。

(役員の任務)

- 第8条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは会長があらかじめ指名した副会長がその職務を代行する。
- 3 常任理事は、会長を補佐し、本会の事業を執行する。
- 4 理事は、常任理事と協力して会務に従事する。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。

(顧問)

- 第9条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の議を経て会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の諮問に応ずる。

第3章 総会及び理事会等

(総会)

- 第10条 総会は、定期総会及び臨時総会とする。
- 2 定期総会は、毎年1回会長が招集する。

3 臨時総会は、必要に応じて会長が召集する。
4 総会は、次の事項を審議する。

一 会務報告

二 予算及び収支決算

三 役員選出

四 会則の改廃

五 理事会又は常任理事会において必要と認めた事項

(理事会等)

第11条 常任理事会及び理事会は、必要の都度会長が召集し、会務の重要事項について審議する。

2 常任理事会は、会長が緊急を要すると認めた事項については、総会に代わり議決を行うことができる。この場合において、会長は、総会で事後の承認を得るものとする。

(議決)

第12条 総会、常任理事会及び理事会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

(幹事会)

第13条 本会に会務を円滑に行うため、幹事会を置く。

2 幹事会に關し必要な事項は、別に定める。

第4章 会計

(会計)

第14条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。

2 会費等については、別に定める。

3 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

4 本会の収支決算は、毎年3月に編成し、理事会の承認を得て、総会の議決を得なければならない。

附則

この会則は、平成14年3月1日から施行する。

千葉大学校友会の
会費等に関する内規

(平成14年3月1日
制 定)

(趣旨)

第1条 この内規は、千葉大学校友会会則第14条第2項の規定に基づき、千葉大学校友会の会費等について必要な事項を定める。

(会費)

第2条 学部同窓会は、所属する会員の会費として、次のとおり負担する。

一 教育学部 医学部、工学部及び園芸学部の各同窓会 年額15万円
二 法経学部及び理学部の各同窓会 年額10万円
三 文学部、薬学部及び看護学部の各同窓会 年額5万円

2 前項以外の会員の会費については、理事会において定める。

(寄附金)

第3条 会員又は会員以外で本会の目的・事業に賛同する者から、恒常的に寄附金を募集するものとする。

附則

この内規は、平成14年3月1日から施行する。

同窓会
賞規定

(目的と対象)

第1条 本規定は本会会員(甲および乙)の学術および文化諸分野における顕著な功績に対し、これを顕彰することを目的とする。受賞対象となる活動は国の内外および地域を問わない。

(顕彰の種類)

第2条 顕彰の種類は学術賞および功労賞とする。

1、学術賞は、医学あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした会員(個人あるいはグループ)に授与する。

2、功労賞は、医学あるいは広く文化の各領域において千葉大学および千葉大学の貢献をしたものに授与する。

功労賞の区分は以下の四種とする。

国際賞

国際交流および海外医療の向上に尽くしたものの教育・文化賞

教育、芸術およびスポーツなどの領域において功績顕著なもの

医療・福祉・行政賞

医療・福祉・行政の分野において優れた事績のあるもの

野において優れた事績のあるもの

社会功労賞

自己の危険を顧みず人命救助したもの、公益のため私財を寄付するなど功績顕著なもの

(同窓会賞選考委員会)

第3条 本会に同窓会賞選考委員会を置く。

同窓会賞選考委員会は、会長の諮問に応じ、るのはな同窓会賞の候補の選考に關する事項を調査審議する。

委員会は応募者の中より学術賞5件以内・功労賞3件以内の受賞候補者を選考する。

(選考委員)

第4条 選考委員会の委員は、るのはな同窓会常任理事会が6ないし8名の委員を推薦し、るのはな同窓会会長が委嘱する。

委員の任期は、2年とする。委員の再任は妨げない。ただし連続2期までとする。欠員が生じた場合、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

委員の互選により委員長を置く。

(組織および運営の細目)

第5条 前条までに定めるものの他、組織および運営の細目については常任理事会の承認を得て選考委員会が定める。

(申請応募の原則)

第6条 同窓会賞受賞希望者は、同窓会賞募集要項に基づき、所定の申請書に必要事項を記載し応募するものとする。

募集要項は、るのはな同窓会報に掲載する。

申請は自薦・他薦を問わない。

(受賞者の決定)

第7条 受賞者の決定は選考委員会、常任理事会の議をへて会長が行う。

(賞状および副賞)

第8条 受賞者には本会より楯および副賞を贈呈し、受賞対象となった業績、氏名をるのはな同窓会総会およびるのはな同窓会報に公表する。

(記念講演)

第9条 受賞者はりのはな同窓会総会にて記念講演を行う。

付則

本規定は、平成9年11月26日から施行する。

平成7年6月24日制定のるのはな同窓会賞選考規程および平成9年2月26日制定ののはな同窓会顕彰規定(功労賞)は廃止する。

エッセー

インド料理

望月良夫(昭30)

有楽町駅から晴海通りを歌舞伎座に向かい、三原橋交差点を左に曲がるとナイルレストランがある。

2002年(平成14年)5月16日、私が主宰する「印度会」で20名が、印度専門料理を賞味した。「印度会」は年に4回開催で、これが48回目、オーナーシェフはGM

ナイル(57歳)さん、スタッフはインド人ばかりである。この日はカバール(ひき肉の揚げ物)、チキンマサラ

(地鶏のトマト煮込み)、ブロウンズモリー(海老のココナツカリ)、ポークロースト(豚肉のスパイス炒め)など14品が並んだ。

初めてこの店を訪ねたのは1956年(昭和31年)岩津教授の産婦人科教室に入院してほどなくであった。当時は飽食の昨今とちがい、グル

ルメ本というほどのものもなく、洋食ではフランスとドイツ料理が何軒か、東南アジア料理はインドネシア・

ラヤとナイルレストランぐらいだった。

あの時をよく覚えている。ナイルレストランの半間の

ドアを引くとそこがレジで座っていたインド人が立ちあがると「イラッシャイマセ」と席へ手をのべた。こ

じんまりした客室にテーブル5、6が歩きにくいほど並び、隅が厨房のカウンター。客はいなくて私が席につくとインド人がメニューを手

に近づいてきた。姿勢のよい鷲鼻の偉丈夫で、黒い皮膚にきざまれた皺は深く、眼はギョロリと

しているが瞳はやさしい。「ナンニイタシマショウカ」。注文二品を伝票に書く

くと、厨房にインド語でどなった。

やがて、ボーイが容器に入ったカレーと、ご飯が広がった皿を置いたので、スプーンでカレーをすくうと

インド人が跳んできた。「マジエテバナサイ」と、全部のカレーをかけてくれた。もう一品を食べ終

わると傍らに立ち「コウチャハイカガデスカ」。唯の人物ではないとわかった。インド国民軍と独立連盟の組織者として、ラシュ・ビハリ・

ボース、スバス・チャンドラ・ボースと反英インド独立闘争に身を捧げたAMナイル氏であった。

氏は、1905年(明治38年)インド南西のトラヴァンドラムのクシャトリア(士族)の名家に生まれた。14歳から社会革命運動に熱中、17歳のとき高校の授業料値上げ反対で世界初の学生スト

を行い、英国政府のブラツクリストになる。氏の投獄を心配した両親は、1928年(昭和3年)、京都帝国大学工学部土木工学科に入学させたが、インド問題を取り

あげる集会には必ず出席し、解放運動家として知られるようになる。以後、日本の敗戦まで、インド独立のため日本ばかりか満蒙、西域にいたる広大な地をめぐって不屈の波瀾の半生をおく

た。1947年(昭和22年)のインド独立後は、生計をたてるために銀座にナイルレストランをオープン、料理人をインドから呼び、材料は貿易会社を設立してとりよ

せ、本格的な味を提供していた。

話を戻す。店に通ううちに、次男GMナイルさんと知り合った。彼は以前から毎年2月11日(旧紀元節)にナイル会と称し友人十数名を本郷の自宅に招いて、

ケララ州の上流階級の料理をふるまっていたが、私も1980年から招かれ、インド料理の真髄を知った。一口で言えば、豊富な香辛料の、至芸といえる組み合わせにある。チキンマサラ、チャンナマサラ、サンバーなど、何十種類も堪能した。

ナイルレストランに通うものの、おきまりのメニューに飽きたらなくなり、とうとう、食いしん坊の知友を集め、印度会を旗揚げしたのだった。料理のレベルはもちろんなイル会と同じ、アルコール飲料は、越乃寒梅・特撰、インドビールと決めた。

会を重ねた或る時、GMナイルさんは開会前にこんな挨拶をした。「お出しする魚料理は、今朝館山港に揚がったものです。どの料理も店では出ません。私は平素思うのですが、旨い料理を食べようと思ったらオーナッシュェフと仲良くなることです」と。

ナイルさんの現在の自宅は千葉県鋸南町にあり、銀座の店に通動している。保田駅からタクシで5分、300坪の鋸山の丘陵地に、自宅のほか、タンドリハウス、ワイン蔵、温室が点在している。タンドリーとは、上部から食材を入れ炭火で

焼くインド独特の釜をい、厨房と客室の一棟をハウスと名付けている。

インド料理は奥が深い。インド料理ときけばカレーを連想するぐらいであつたら、銀座のナイルレストランを訪ねてほしい、廉価で飽きない味に会うだろう。



編集後記

医学薬学総合研究棟の建設予定地に古墳跡が発見されました。七天王塚を避けての敷地選定の結果、意外なことに七天王塚がこの古墳を囲むようにして存在していたことが明らかとなりました。埋蔵文化財調査委員会の屋下がり炎天下で行われました(詳細は本号16)

17頁参照)。説明に聞き入りながら、旧石器時代から人が住んでいたという跡を眺めていると、未来の考古学者が「ここにはかつて医学薬学の研究棟があつたと思われまふ」と説明している光景の幻をふと見たような気がしました。現在は、調査も終了し遺跡は埋め立てられ工事が着々と進んでおります。(白澤浩 昭57)

千葉大学校友会総会開催のご案内

日時 平成14年10月5日(土) 15時から

場所 幕張プリンスホテル プリンスホール(2階) 千葉市美浜区ひび野2丁目3番

電話 043-296-1111(代)

日程

第一部 総会 15時から

講演・シンポジウム 16時から

「南極観測・研究がもつ国際貢献と大学の役割―第43次南極観測隊長の体験から―」 西尾文彦 教授(環境リモートセンシング研究センター) 「千葉大学に望むこと」 法経学部・工学部OBと現職員によるシンポジウム

第二部 懇親会 18時から

会費 8,000円

なお、総会等に参加を希望される方についての受付窓口は各学部同窓会幹事または校友会事務局総務課堀江(043-290-2179)までお知らせくださいますようお願いいたします。